

金沢市都市計画マスタープラン

～ 都市計画に関する基本的な方針 ～

第6回策定委員会資料

平成20年11月27日

金沢市都市計画マスタープラン 目次

序 計画策定にあたって

- 序 - 1 計画の概要
- 序 - 2 既定計画策定以降の都市づくりの取り組み

第1章 都市づくりの視点と課題

- 1 - 1 現行の都市計画マスタープランにおける視点・課題等
- 1 - 2 今回の改訂にあたっての視点
- 1 - 3 今回の改訂にあたっての課題

第2章 都市の将来像

今回の提示、協議部分

- 2 - 1 都市づくりの基本テーマ 2-1
- 2 - 2 都市づくりの目標 2-2
- 2 - 3 将来に向けた都市づくりのあり方 2-4
- (1) 将来の都市像 2-4
- (2) 公共交通政策を介した都市構造の集約化の考え方 2-17

第3章 都市づくりの方針

- 3 - 1 土地利用の方針 3-1
 - (1) 土地利用区分 3-1
 - (2) 土地利用配置の方針 3-2
- 3 - 2 都市基盤整備の方針 3-6
 - (1) 市街地整備の方針（市街地基盤づくり） 3-6
 - (2) 交通施設等整備の方針（交通体系づくり） 3-10
 - (3) 公園緑地整備の方針（憩いの場づくり） 3-17
 - (4) 農地と森林の整備、保全、活用の方針（農林基盤づくり） 3-21
- 3 - 3 都市環境整備の方針 3-22
 - (1) 都市環境形成の方針（自然と歴史を活かした景観づくり） 3-22
 - (2) 安全・安心な都市づくりの方針（安全安心な環境づくり） 3-26
 - (3) 主な供給処理施設整備の方針（生活基盤づくり） 3-30
 - (4) 公共公益施設整備の方針（市民生活を支える施設づくり） 3-31
- 3 - 4 市民参加・協働のまちづくり方針 3-32

第4章 重点地区（旧城下町区域）のまちづくり方針

4 - 1 重点地区の設定	4-1
4 - 2 重点地区のまちづくりのテーマ	4-2
4 - 3 重点地区のまちづくり方針	4-3
(1) 多様な人が住まい、営み、交流する金沢の「にぎわい」づくり	4-4
(2) 生活に根付いた金沢の「ほんもの」づくり	4-5
(3) 古いものと新しいものとが調和する金沢の新たな「みりょく」づくり	4-6
(4) やさしさと親しみに満ちた金沢の「もてなし」づくり	4-7

第5章 地域別のまちづくり方針

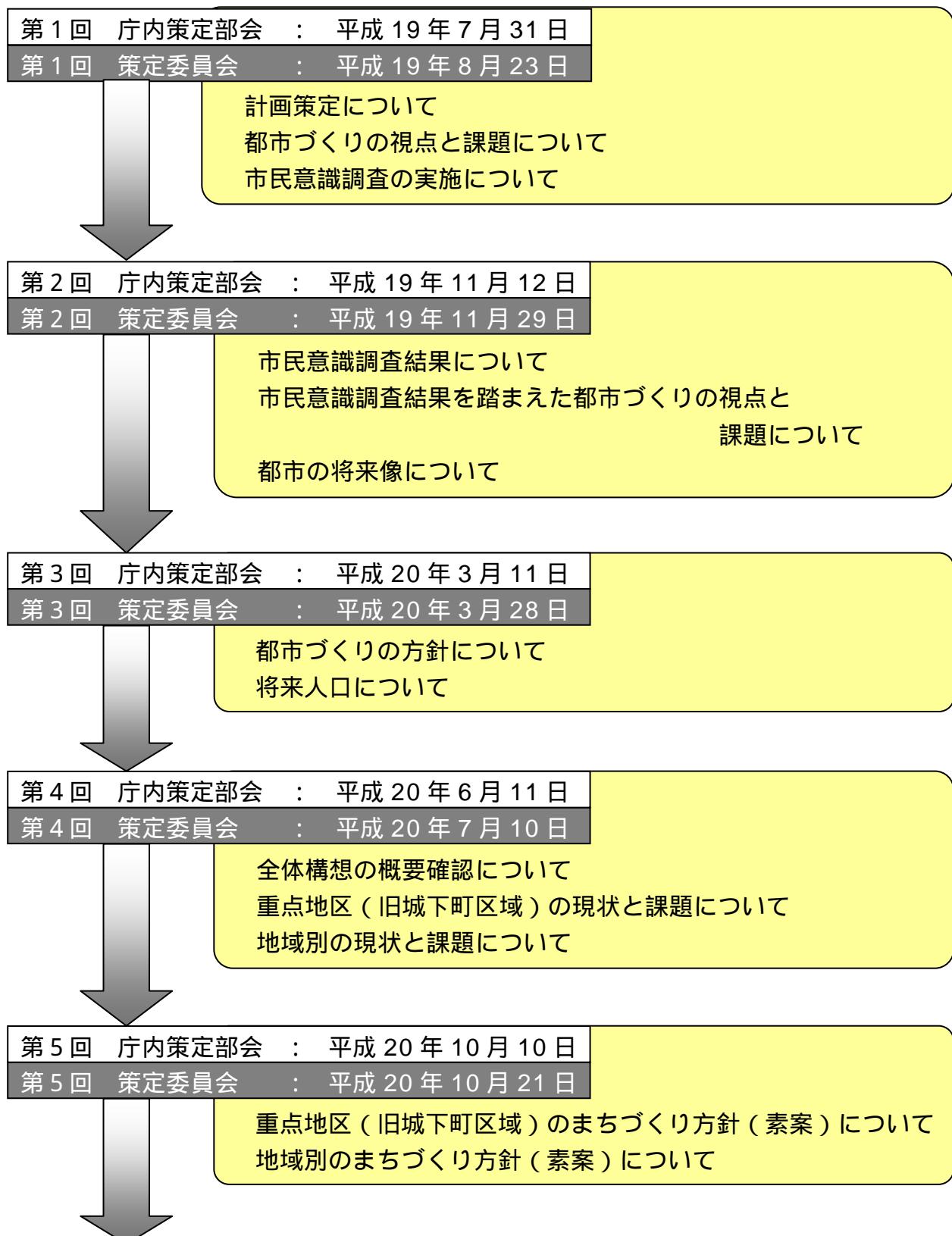
5 - 1 地域区分	5-1
5 - 2 地域別のまちづくり方針	
1. 中央地域	5-2
2. 城東地域	5-6
3. 犀川南地域	5-9
4. 城北地域	5-12
5. 東部地域	5-15
6. 南部地域	5-17
7. 東部丘陵地域	5-20
8. 南部丘陵地域	5-23
9. 湖南地域	5-25
10. 北部地域	5-27
11. 駅西地域	5-30
12. 臨海地域	5-33
13. 西南部地域	5-36
14. 西部地域	5-39

次回以降の提示、協議予定部分

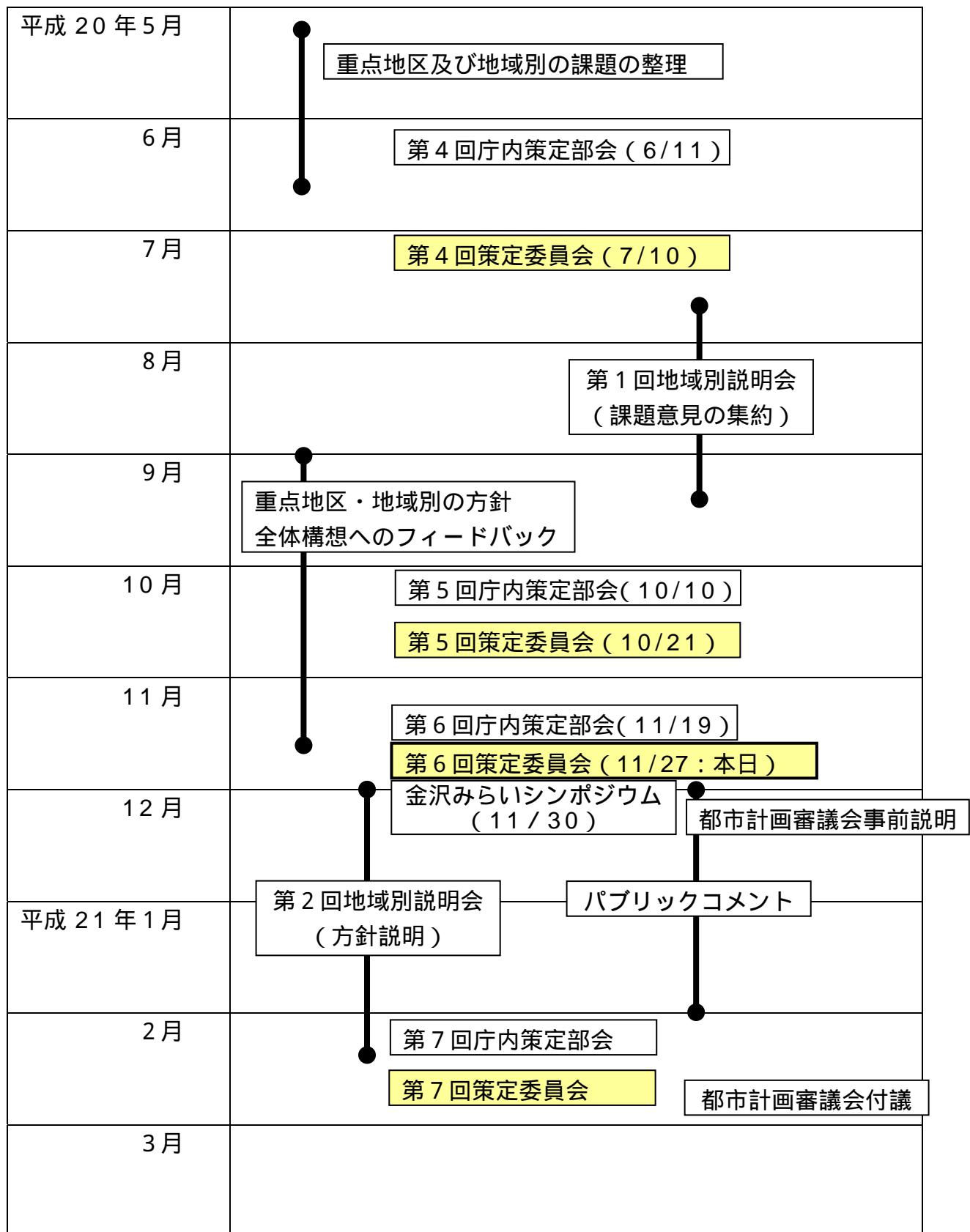
第6章 都市計画マスタープランの今後の展開とまちづくり

これまでの検討経緯と今後の検討予定スケジュール

これまで5回にわたる「策定委員会」での検討経緯は以下に示すとあります。



また、現時点における今年度の検討予定スケジュールは以下に示すとおりです。



第2章 都市の将来像

2.1 都市づくりの基本テーマ

都市計画マスタープランでは、「世界都市金沢」を実現するために、都市計画として必要な理念や基本方針を定めます。

今回の見直しにあたり、既定計画策定以降約10年にわたる本市の都市づくりの進捗や大きく変化した社会経済情勢等の背景を踏まえると、これからまちづくりにおいては、環境保全、都市経営の効率化(都市機能の集約化)、安全、安心の確保等により、きちんと次の世代に受け継いでいける金沢をつくりあげていくこと、また、都市の主役である市民を主体にまちづくりを進めることがより強く求められていると考えられます。

そこで、これらをもとに次のように「都市づくりの基本的テーマ」を掲げることとします。

- 都市づくりの基本的なテーマ -

市民とともに、金沢らしさを守り育て、

持続可能なまちづくりを進めることにより、

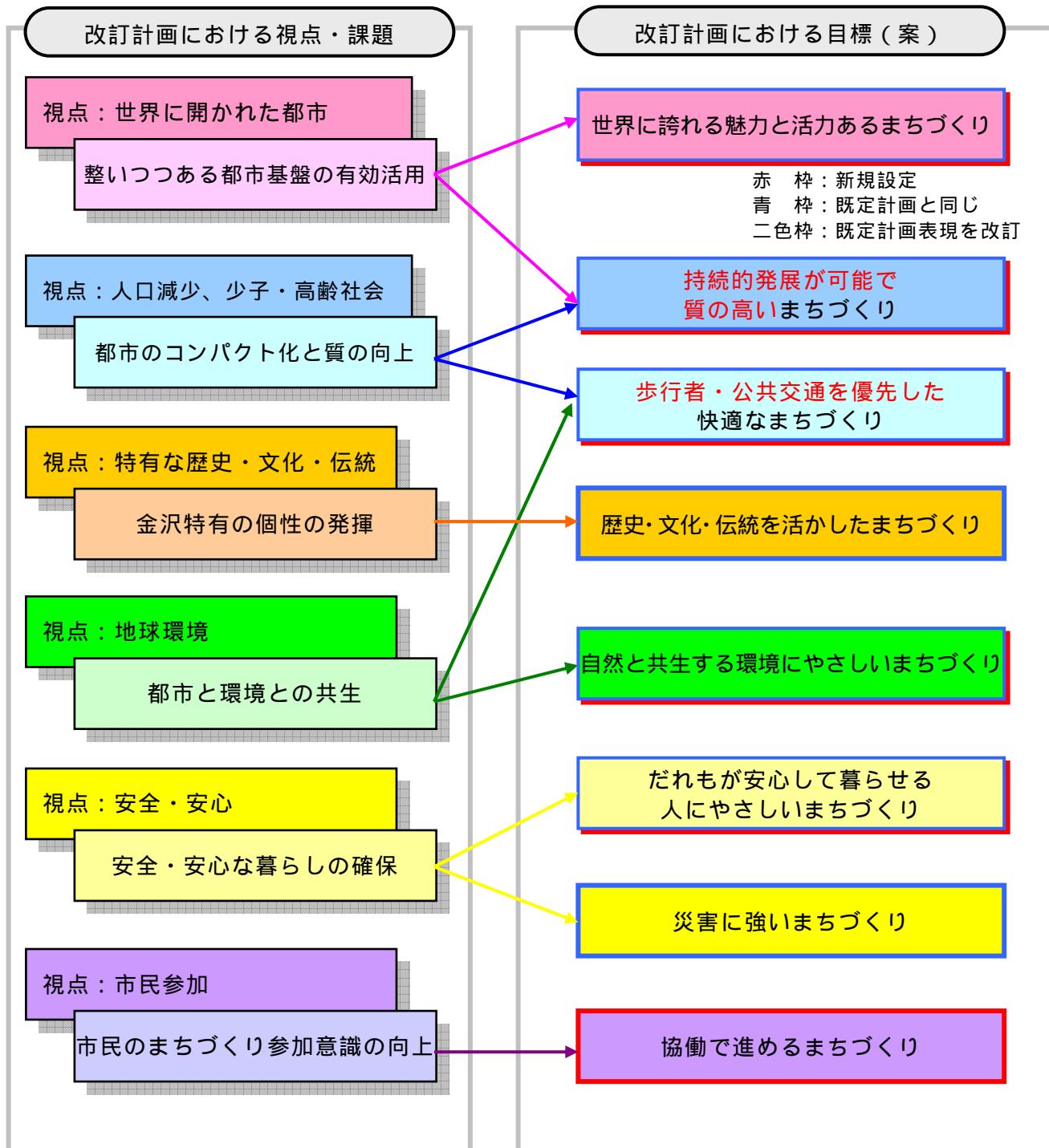
世界の中で独特の輝きを放つ「世界都市金沢」の実現



2 2 都市づくりの目標

『「世界都市金沢」の実現』のテーマのもと、これまで整理した視点や課題から、都市づくりの目標として以下に示す8つの項目を設定します。

図 - 都市づくりの目標の設定



世界に誇れる魅力と活力あるまちづくり

北陸新幹線をはじめとする各種基盤整備が整いつつあり、これらを最大限に活かし交流人口や企業進出の増加を図ることにより、中心市街地の活性化や地域拠点形成を図り、魅力と活力あるまちづくりをめざします。

持続的発展が可能で質の高いまちづくり

来るべき人口減少、少子高齢社会に対応して、中心市街地を核とした効率的な都市経営を推進するとともに、農村集落の維持にも配慮し、都市全体としてバランスのとれた住環境を形成することにより、持続的発展が可能で質の高いまちづくりをめざします。

歩行者・公共交通を優先した快適なまちづくり

公共交通利用促進と歩ける環境整備を最重要課題として、マイカーと公共交通のバランスのとれた交通体系の構築を推進することにより、歩行者・公共交通を優先し、移動が円滑で快適なまちづくりをめざします。

歴史・文化・伝統を活かしたまちづくり

日本を代表する大型の城下町として重層的な歴史のなかで継承されてきた都市構造や文化、伝統は、金沢の貴重な財産であり、世界文化遺産登録を視野に入れた取組を進めることにより、自らの歴史に責任を果たせるまちづくりをめざします。

自然と共生する環境にやさしいまちづくり

白山山系を背に日本海に面し、三つの丘陵と二つの河川からなる独自の地形を骨格とする豊かな自然を後世に守り伝えるとともに、農地や森林の維持を含めた総合的な環境保全の取組を推進することにより、自然と共生する環境にやさしいまちづくりをめざします。

だれもが安心して暮らせる人にやさしいまちづくり

高齢社会への対応はもちろん、すべての人が快適で安心して暮らせるよう、各種施設のバリアフリー化やコミュニティの充実などを推進することにより、地域が支える人にやさしいまちづくりをめざします。

災害に強いまちづくり

起伏に富んだ魅力ある地形、伝統的なまちなみを守りつつ、防災性向上に必要となるハード、ソフト両面からの施策を積極的に展開することにより、災害に強い安全で安心して住めるまちづくりをめざします。

協働で進めるまちづくり

まちづくりは市民を主役に産・学・官の全ての知恵と力をあわせて取り組むことが不可欠であり、そのために必要な体制、組織づくりや情報公開を推進することにより、協働による開かれたまちづくりをめざします。

2 3 将来に向けた都市づくりのあり方

（1）将来の都市像

本市の将来像実現に向けた都市づくりの骨格となる都市構造を、大きく「土地利用」「交通」「歴史・景観」「水と緑」の区分により設定します。

1 土地利用構成と主要な都市機能

【基本的土地利用構成】として中心市街地、市街地、農業環境、自然環境の4つのゾーンを設定するとともに、【主要な都市機能】として都心軸、地域中心拠点、産業拠点、学術拠点の設定を行うことにより、本市の都市づくりの基盤となる土地利用構成を提示します。

【基本的土地利用構成】

中心市街地ゾーン

中心市街地活性化基本計画の対象区域を中心市街地ゾーンとして位置づけます

金沢らしさの象徴であり都市全体の核となるゾーンとして、これまでも近代的都市機能と自然、伝統文化のバランスに配慮したまちづくりを進めてきました。今後は、世界都市金沢の実現のため、歴史的資産の保存、活用に努めるとともに、定住促進、商業、業務の活性化、交流人口の拡大、公共交通を優先した歩行者中心の交通政策の推進を積極的に進めることにより、にぎわいと活力のある風格を備えた中心市街地の実現を進めます。

市街地ゾーン

おおむね現状の市街化区域を市街地ゾーンとして位置づけます。人口減少、少子高齢社会の到来を背景とした持続可能な都市づくりを進めるために、今後は原則として市街地の拡大を行わないものとします。

市街地ゾーンは、大半が戦後形成された新市街地であり、約半分は土地区画整理事業が実施されています。住宅地を中心に商業、業務地、工業地、流通業務地などが配置されており、地区ごとの特性に配慮した機能整備を進めます。また、まちづくりルールの普及をはじめとして市民とともに安全、安心で質の高い住環境整備に努め、成熟した都市にふさわしい市街地づくりを推進します。

農業環境ゾーン

主としてJR北陸本線以西の平野部の市街化調整区域を農業環境ゾーンとして位置づけます。

河北潟周辺地区、粟五地区及び安原地区などの優良農地を保全し農業の振興を図るとともに、良好な集落等の生活環境づくりを進めます。

自然環境ゾーン

市街地の後背部にある山間地、犀川、浅野川の両河川および海岸線沿いを自然環境ゾーンとして位置づけます。

金沢市は多様な地形のもと豊かな自然に恵まれており、都市を構成する貴重な財産として、また、良好な景観を形成する大事な要素として守り続けていかなければなりません。自然環境ゾーンは、生態系保全、水源保全、災害防止などの基本的機能に加え、潤いとやすらぎの場、観光資源といった付加的機能にも配慮して、保全を基本に活用を図っていきます。また、後背地となる山間地に点在する集落について、農地や森林を守っていくためにも農林業の継続と集落機能の維持に努めていくこととします。

【主要な都市機能】

都心軸

片町、香林坊から武蔵、金沢駅を経由して金沢港に至る軸線を都心軸と位置づけます。

都市機能の効率化を推進するために、日本海側の中核基幹都市として備えるべき商業、業務機能や各種交通施設などを積極的に都心軸に集約配置し、風格ある近代的都市金沢の顔を形成します。特に、中心市街地ゾーンにおいては、「**保全**」と「**開発**」が調和したエリアとして位置づけられ、歴史性に配慮しつつ近代的都市機能の集積、充実に努め、中心市街地の活性化を推進します。

<軸上都市拠点>

- ・片町、香林坊地区、武蔵地区を中心商業地として位置づけ、**県外からの集客力を備えた**商業機能の充実を図ります。
- ・金沢駅周辺は最重要交通結節点として位置づけ、**商業機能を含めた各種都市機能**を備えた金沢の玄関口として整備を推進します。
- ・石川県庁周辺地区は、駅西副都心の核として位置づけ、近代的都市機能の集積を推進します。
- ・金沢港地区は、港湾機能の核と位置づけ、**世界から多くの人と物を迎える**海の玄関口として整備を推進します。

地域中心拠点

J R 北陸本線の森本駅、東金沢駅、西金沢駅周辺を地域中心拠点と位置づけます。

これらの地区は、地域活性化の核として、鉄道、バスなどの公共交通が集まる立地特性を活かし、交通結節機能の向上を図るとともに地域の生活を支える商業機能や各種都市機能の充実を推進します。

産業拠点

おおむね外環状道路より外側に整備した金沢港周辺、専光寺地区、安原異業種工業団地、いなほ工業団地、金沢テクノパーク周辺の工業地を産業拠点として位置づけ、企業の新規誘致や市街地からの移転企業の受け皿として機能強化を図ります。また、北陸自動車道金沢東、西インターチェンジ周辺地区についても、広域交通ネットワーク機能を活かした本市の産業発展を支える産業拠点に位置づけます。

学術拠点

金沢には、金沢大学や金沢美術工芸大学をはじめとする多くの大学、研究機関があり、隣接市町を含めると更に充実した状況となり、そこにある知恵と力は大きな財産といえます。これらを学術拠点として位置づけ、市民、大学、行政の連携密度を高めていくことにより、さらに質の高いまちづくりの展開を目指します。

観光機能整備

金沢には、国内外から多くの観光客を引きつける様々な歴史的観光スポットや伝統的芸能、工芸があります。平成27年度には年間入り込み客数1,000万人を目指しており、重要な産業の一つといえます。

そこで、多様な観光要素に磨きをかけるとともに、歩きやすい歩行環境整備や公共交通整備など、来街者の利便性向上を積極的に進め、魅力ある観光地の実現を推進します。

公共公益施設

これまで金沢21世紀美術館や玉川こども図書館など、様々な公共公益施設の整備を進めてきましたが、今後もさらに充実した生活が送れるよう、施設の種類やサービス内容ならびに適切な配置を検討し、必要な公共公益施設の整備、運営に取り組んでいきます。



2) 都市活動を支える交通機能

都市活動を支える骨格的な交通機能を、主として遠方および隣接する都市間との連絡機能を担う「広域交通ネットワーク」と、主として都市内の連絡機能を担う「都市内交通ネットワーク」に区分して設定します。

今後は、地球環境の保全および人口減少、少子高齢社会の到来に対応していくために自動車に依存しない交通体系づくりを進めていく必要があります。そこで、歩行者、公共交通を優先するまちづくりを推進する観点から、公共交通重要路線、交通結節点、パーク＆ライド駐車場を位置づけ、人と環境に優しい交通体系を構築していきます。

広域交通ネットワーク

道路…北陸自動車道、東海北陸自動車道、能登有料道路により富山、福井、中京、能登への主要経路を確保します。また、一般道として、国道8号をはじめとする国道、県道があり、これらの機能強化と渋滞対策を進めていきます。また、東海北陸自動車道（福光方面）への連絡道路の整備を図ります。

鉄道…金沢市と周辺都市を結ぶJR北陸本線、七尾線があり、乗り継ぎ機能の向上をはじめとして利用活性に努めます。また、2014年に予定される北陸新幹線金沢開業に向けて全力で整備を推進するとともに、JR北陸線の第3セクターについても良好な移動機能確保に向けて検討を進めます。

都市内交通ネットワーク（道路）

内、中、外の3つの環状線を中心にそれらを放射状に結ぶ放射幹線により基本的道路ネットワークを構成します。内、中環状の残された区間の早期完成を進めるとともに、海側環状の開通を最重要課題として取り組みます。あわせて、公共交通との関係に配慮して市内の交通渋滞の解消に向けた取組も推進します。

都市内交通ネットワーク（公共交通）

バスや鉄道などの公共交通の充実による利用活性化を最重要課題として取り組み、このための主要な施設として以下の3つの機能の整備を進めます。

公共交通重要路線

都心と市街地ゾーンを連結する公共交通幹線として主要なバスルートと鉄道を位置づけます。バスルートでは、積極的にバスの優先化などを進め、公共交通の利便性向上を図ります。

交通結節点

複数の公共交通を効率よく接続し利便性を高めるために、駅や主要バス停を交通結節点として位置づけ、必要な整備を推進します。

パーク & ライド駐車場

公共交通の利用を促進し、都心への過度な自動車の流入を抑制するために中環状の外側を中心に、自動車から公共交通に乗り換えるパーク & ライド駐車場を整備します。

その他の交通機能

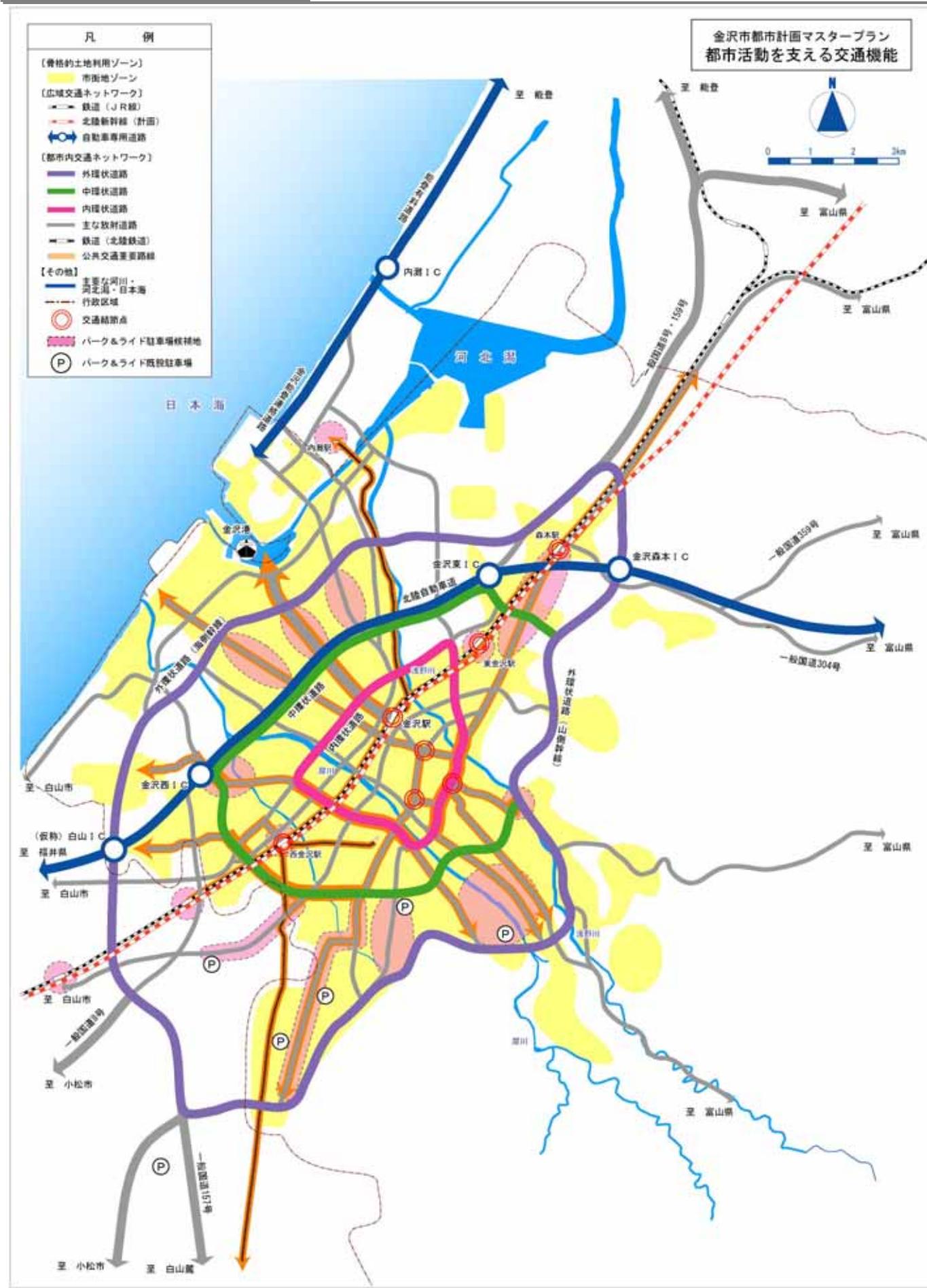
身近な生活道路については、周辺住民の生活空間であることに配慮し、歩行者主体の道路整備や使い方を工夫するとともに、まちなかにおける駐車場の適正な配置を推進します。

また、環境にやさしい交通機関である自転車の利用促進を図るため、自転車駐輪場の整備や自転車道の整備についても取り組んでいきます。

広域交通網図



金沢市都市計画マスター・プラン



3) 都市の個性を生み出す歴史・景観

河川や斜面緑地などの自然環境を保全し、世界文化遺産登録を視野に入れた取組との連携、整合を図りながら固有の歴史文化遺産に磨きをかけるとともに、景観条例の基本的対象区域を拡大するなど、市民意識の向上とともに、より良好で魅力ある景観形成を推進し、さらなる個性の確立に努めていきます。

加えて、沿道景観、夜間景観など新しい景観要素に対しても適切な規制を行い良好な景観形成を推進します。また、都市全体に対して地区計画やまちづくり協定の普及を図り、建物、**広告物等**の形状、色彩や緑化についても市民との協働により魅力ある景観づくりを進めています。

歴史・文化ゾーン

城下町としての都市構造やまちなみの保全を目指して、中心市街地ゾーンを基本に、金石、大野地区の港町や街道筋など歴史的資産を残す地区を歴史、文化ゾーンと位置づけ、各種制度や事業を駆使して金沢の歴史性に基づく景観の保全、創出を推進します。

金沢城や兼六園をはじめとする市内各所の歴史文化遺産を核に、点から線、線から面への景観形成を進め、人々の暮らしや時の移ろい(昼夜、季節)にも配慮した魅力ある情景づくりに努めます。また、景観地区(景観法)の指定をはじめとして景観形成のよりよい仕組みづくりにも取り組んでいきます。

都市機能集積ゾーン

主として都心軸及び軸上都市拠点を都市機能集積ゾーンとして位置づけます。

商業、業務などの都市機能の集積を推進し中枢基幹都市金沢としての活力と賑わいの創出を図る中、歴史・文化ゾーンとの調和を図りながら、歴史都市金沢にふさわしい洗練された風格ある都市景観の育成、創出に努めます。

広域幹線景観形成軸

北陸自動車道や外環状道路には、通過交通を含む市内外からの多くの通行があり、その沿道は来訪者の金沢に対する第一印象を与える場所ともなっています。

そこで、**広域幹線景観形成軸**を指定して規制、誘導を行い、金沢にふさわしい品格のある沿道景観の形成を推進していきます。

また、西インター大通り、東インター大通り、諸江通りなど、市内中心部を結ぶ道路についても、良好な沿道景観の形成を目指していきます。

歴史・文化拠点

金沢には、金沢城、寺院群、茶屋街、金澤町家などに加え、昔からの道路形態や用水、忽構堀などの多くの歴史的遺産があり、これらを歴史・文化拠点として積極的に位置づけ、保全、活用を進めていきます。また、これらを包み込むものとして、周辺のまちなみや丘陵、斜面緑地などの保全に努めるとともに、伝統芸能、工芸などの無形の伝統的要素との融合を進めることにより、金沢らしい感性をあわせ持った景観の形成に取り組み、世界に向けて「城下町金沢」を発信します。



4) 都市を包む水と緑の環境

金沢が有する多様で豊かな自然を守り育てることは、市民生活に憩いと潤いを与えるため、生態系を守るため、世界的な環境保全に寄与するために必要となる、大切な都市づくりの取組といえます。

そこで、白山山系から連なる山間地および日本海に面する海岸線、そしてこれらを結ぶ河川を都市環境軸と位置づけ、保全活用に努めます。また、市民の憩いの場となる公園緑地などのレクリエーション拠点の整備を推進するとともに、平地、中山間地の農地についても重要な自然環境として保全を推進していきます。なお、総合的な環境保全として、交通、生活などの日常的な活動における二酸化炭素排出削減などにも積極的に取り組んでいきます。

都市環境軸

市街地の東にある山間地とそれが市街地に接する卯辰山、小立野台、寺町台の三丘陵を緑の環境帯、市街地の西にある日本海の海岸線および河北潟を海辺の環境帯とし、市街地を横断して2つの環境帯を結ぶ犀川、浅野川の両河川 **これらを金沢外環状道路海側幹線に沿って繋ぐ西部緑道** をあわせて本市の環境、風土の骨格を形成する都市環境軸と位置づけます。

これら山林、河川、海岸による都市環境軸は、市民生活の憩いと潤いの創出、生態系保全などの基本となるエリアであるとともに景観上も大切な要素であり、自然の保全を基本に必要な取組を進めています。

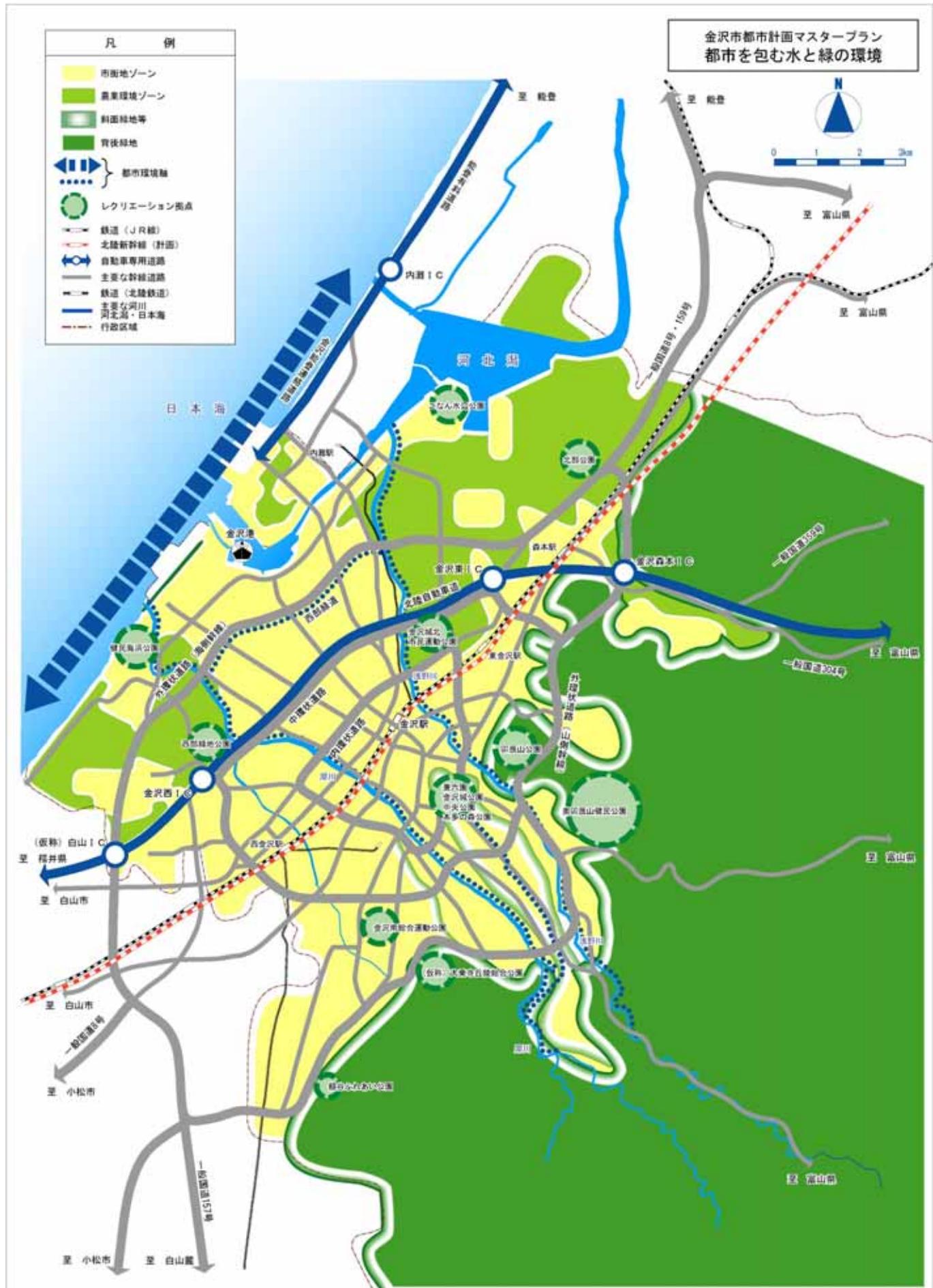
レクリエーション拠点

市民はもとより広域的な利用者の憩いの場となる公園、緑地をレクリエーション拠点として位置づけます。

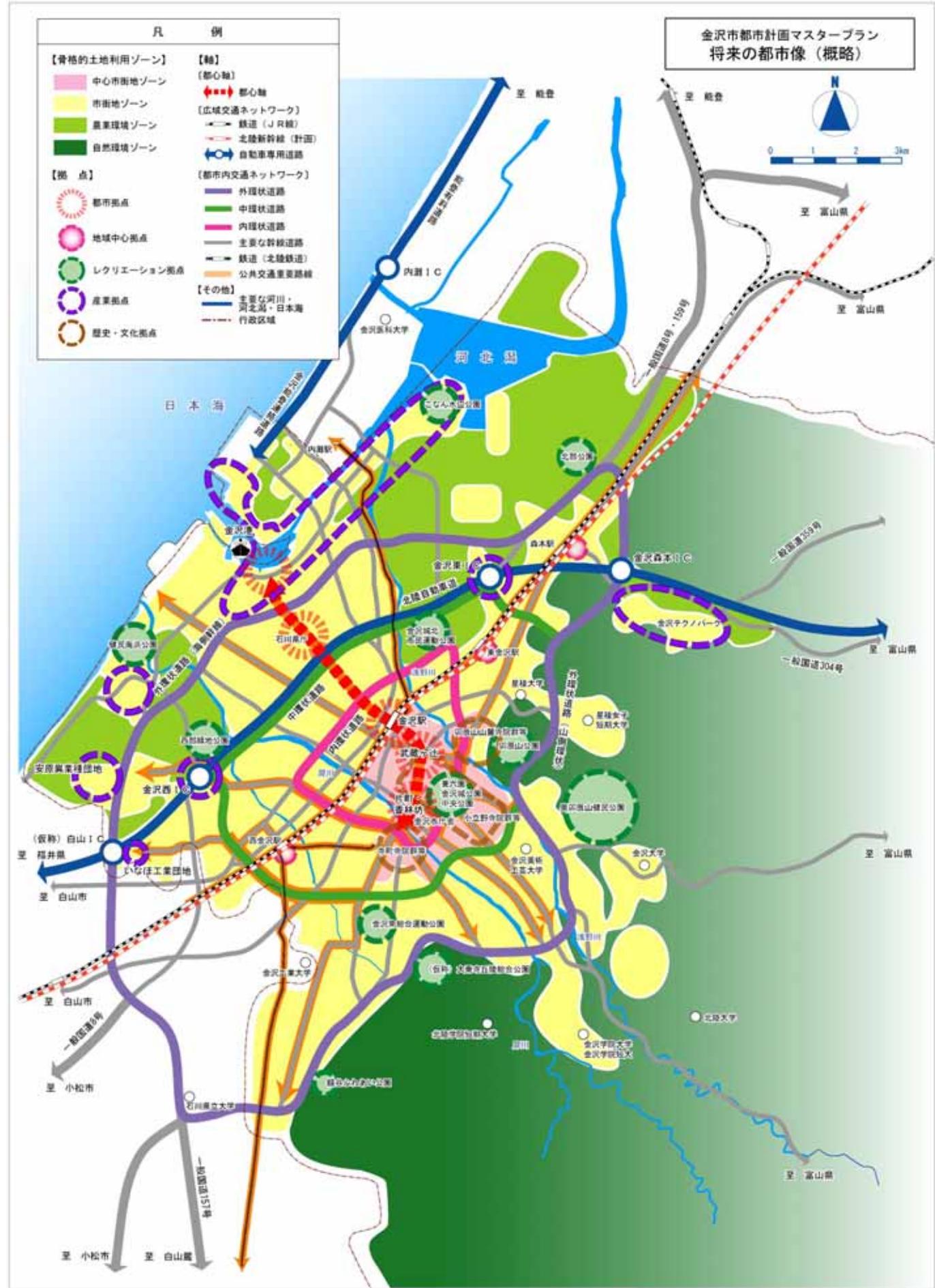
金沢城公園、兼六園、中央公園、**本多の森公園**を歴史とにぎわいの拠点、卯辰山公園、奥卯辰山健民公園、**大乗寺丘陵総合公園**（仮称）、こなん水辺公園を憩いの拠点、西部緑地公園、金沢城北市民運動公園をはじめとする運動施設を有する公園をスポーツ拠点として、市民の利便性を第一にそれぞれの目的と特徴を活かした整備と運営を進めています。

住区基幹公園

市民の日常生活に直結する街区公園、近隣公園について、遊び、休息、憩いなどの本来の機能充実を図るとともに、一次避難や資材保管などの防災広場としての機能も重視して、市民の協力のもと整備、管理、運営に取り組みます。また、整備にあたっては、適切な誘致距離と緑道などの歩行経路によるネットワーク化にも配慮して進めています。



金沢市都市計画マスタープラン



(2) 公共交通政策を介した都市構造の集約化の考え方

都市全体の維持管理をはじめとする観点から、都市経営の効率化を図ることは不可欠な課題ですが、拡散の進んだ市街地を短期間に物理的な縮退を実現することは不可能といわざるを得ません。しかし、将来的な人口減少にも対応できる都市計画であるためには、商業、業務機能の都心集積を促進することに加えて、住宅を含めた都市全体の土地利用が適切な配置となっていくよう一定の方向性を示す必要があります。

本マスタープランでは、人口減少社会の到来を見据えて原則として市街地の拡大をしないことを打ち出しています。そして、現在の市街地に対しても、都心を商業、業務機能の核として確立し、これを中心とした生活スタイルに転換していくことにより、住宅をはじめとした都市全体の土地利用の適正化を実現していくこととします。また、この都市構造の集約化は、長期的な視野に立ち取り組む必要があると考えています。

この実現のための基本的な仕組みとして、都心への都市機能の集約化と中心市街地の活性化を推し進めることを前提に、都心との連絡利便性を高める公共交通政策を戦略的に展開することを位置づけます。これを長期的に継続していくことにより、居住場所を問わず都心との関係性が高まり、自然な流れとして一定の都市構造の集約化が進んでいくと予測しています。

1) 都心との関係性の向上

現在、郊外市街地ではマイカーによる自由な全方位型の移動が基本となっています。しかし、高齢化の進展によりマイカーを運転できなくなる住民が増加することは必須であり、これらの人々の移動は公共交通に頼らざるを得なくなります。しかし、この全方位型の移動を公共交通で担保することは物理的、財政的に不可能なことから、金沢市においては、公共交通重要路線を指定し、都心部との移動に方向を限定した公共交通の利便性向上を推進することとしています。これにより、マイカーに頼ることなく、日常的な用件以外は公共交通で中心部に行き用を足すという行動パターンが、郊外や近郊など居住す

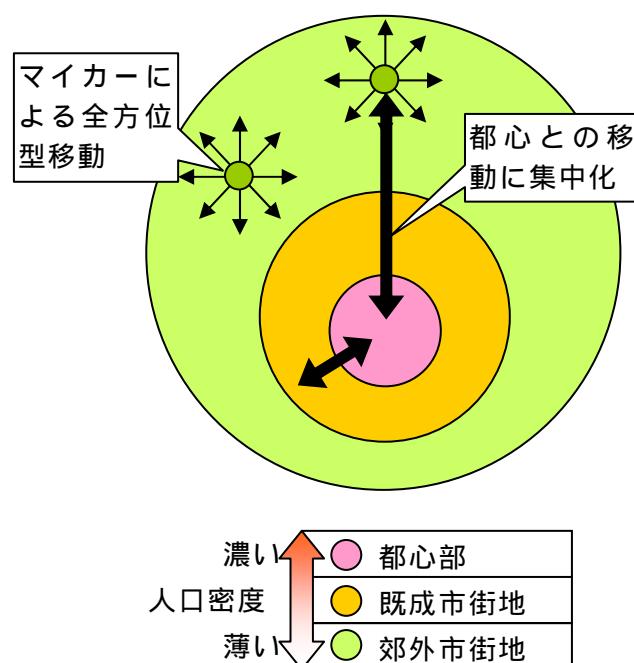


図-1 郊外市街地の移動パターン

る場所を問わず可能となります（図1参照）。これらの取組は、都心への機能集積の推進を柱として、都心との連絡利便性を高める公共交通政策を戦略的に展開していくことにより、様々な都市活動における都心の比重を高め、全ての居住地において都心を中心とした生活スタイルへの転換を図るもので

す。金沢市では、物理的な市街地の早急な縮退が非現実的であることから、公共交通政策により全方位型から都心方向に移動のシンプル化を進め、都心を中心とした生活スタイルへの転換を図ることを都市経営の効率化の第一歩と位置づけています。そして、この実現のために公共交通政策が大きな鍵を握っていると考えています。

2) 緩やかな市街地（居住地）の集約予測

これら施策の長期的展開により予測される緩やかな市街地集約化のイメージを図2に示します。

この施策展開により、都心部、既成市街地および公共交通重要路線沿いは、公共交通の利便性が将来的にも確保されるエリアとして位置づけられることから、マイカーに依存しない生活スタイルをおくる場合、居住場所により移動に関して利便性の濃淡が生じることとなります。

居住地の選択は、生活スタイルなど様々な条件により行われますが、高齢化に配慮した終の棲家を選ぶ場合、マイカーを使わなくても一定の移動手段が確保される場所であるかどうかは重要な条件となってきます。そこで、公共交通政策を介した都心機能集約を進めることにより、長い時間かけて住み替えや新規居住が進む中、移動に関する利便性の濃淡にあわせて、都心部、

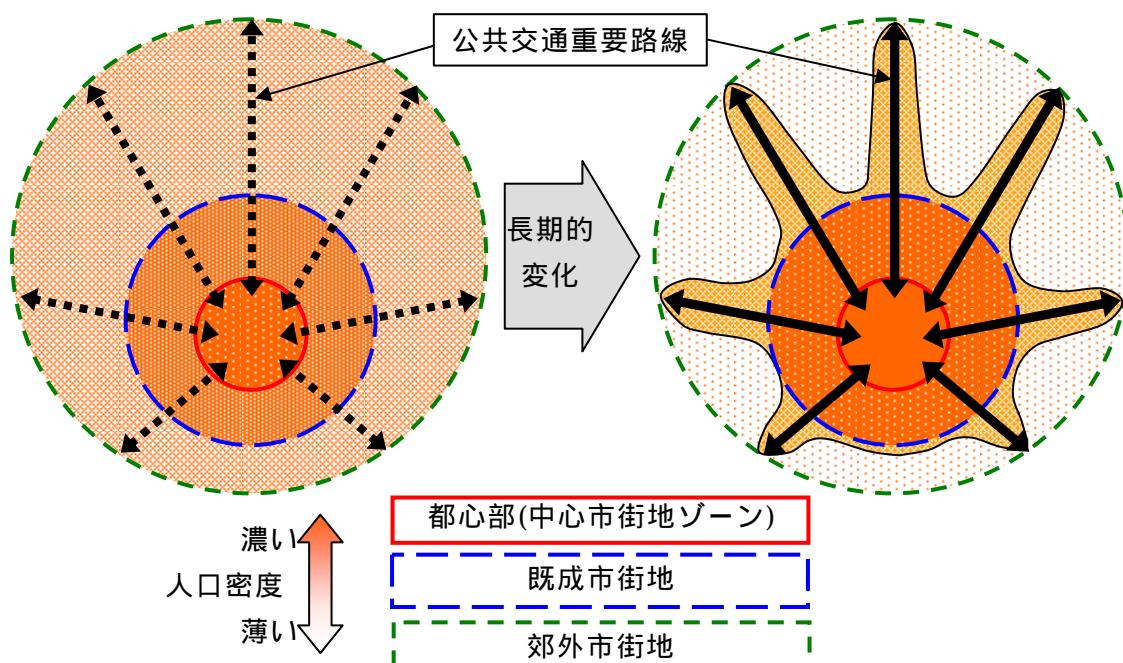


図-2 都市構造の緩やかな変化の予測

既成市街地および公共交通重要路線沿いへ居住地の集約化が進展していくと予測しています。

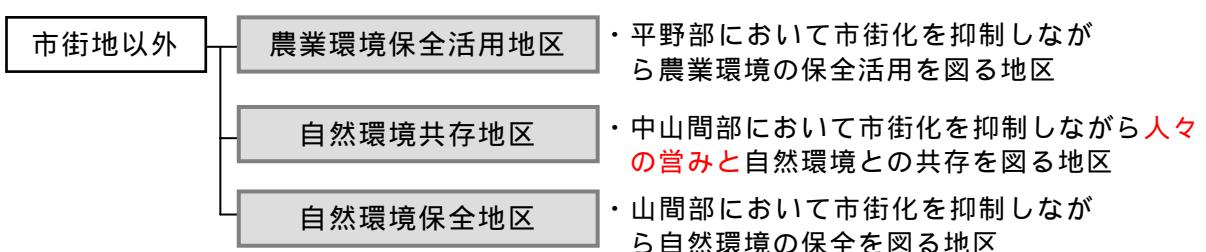
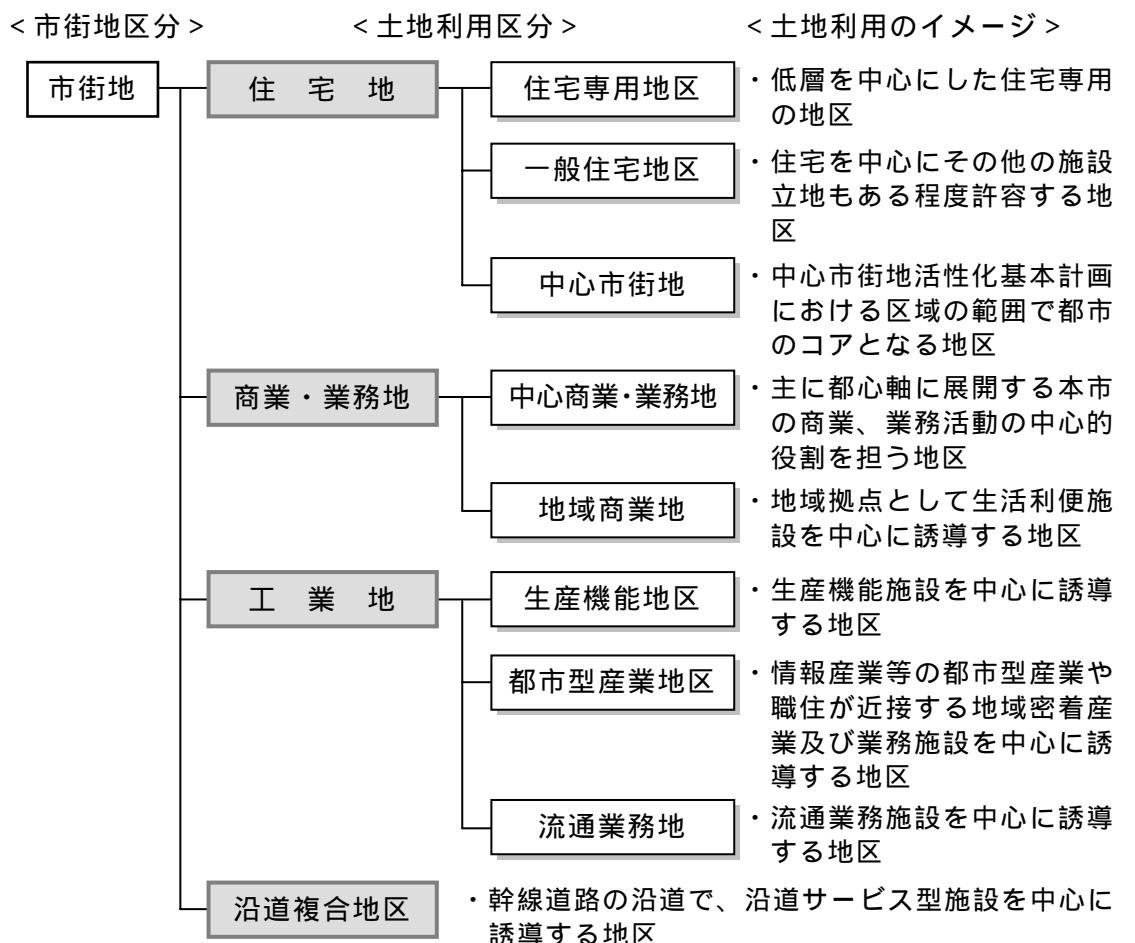
最後に、このように市街地構造が緩やかに変化するという長期的な予測の中、適切な土地利用と良好な住環境を確保していくために検討する必要があると考えられる施策を示します。

- ・都心中心の生活スタイルへの転換の促進
- ・移動の利便性水準の周知とそれにあわせた居住地選択(住み替え)の促進
- ・公共交通重要路線沿いの住環境整備
- ・公共交通利用活性化と公共交通重要路線の利便性向上
- ・P & R 駐車場や乗換地点周辺における結節機能の拡充と地域商業地整備
- ・想定される郊外低未利用地への行政としての対応策の検討

第3章 都市づくりの方針

3 1 土地利用の方針

(1) 土地利用区分



(2) 土地利用配置の方針

- ・金沢独自の地形、風土の骨格を守りながら、自然と都市が調和、共存する成熟した都市形成を促すため、賑わいを創出し、住まい、働き、生産する場としての各種土地利用を計画的かつ適切に配置します。
- ・今後は、原則として市街地の拡散につながるような新たな市街化区域の拡大は行わないものとし、土地利用区分ごとの基本的な配置方針を次のように定めます。

1) 住宅地

- ・住宅地は、都市構造上の中心市街地及び市街地ゾーンの内、外環状道路の内側を基本として、現況の住宅とその他の建物の混在度合い及び住宅地としての将来的土地利用の方向性を勘案して、次の各地区を配置します。

中心市街地（図示は橙）

- ・中心市街地活性化基本計画に位置づけられる区域の内、都心軸周辺を除く住宅地を「中心市街地」として配置し、歴史性に根ざした金沢らしい居住を目指す地区として位置づけます。

住宅専用地区（図示は緑）

- ・主として中環状道路と外環状道路の間ににおいて、戦後住宅用地の造成を目的に土地区画整理事業等により計画的に整備された住宅系市街地及びその周辺を「住宅専用地区」として配置し、低層住宅を中心に良好な居住環境の維持、整備を図る地区として位置づけます。

一般住宅地区（図示は黄）

- ・主として中環状道路の内側において、都心軸、中心市街地ゾーン、業務、工業系土地利用が主となる地区及び住宅専用地区を除いた住宅系市街地を「一般住宅地」として配置し、住宅以外の施設との共存に配慮しながら、良好な居住環境の維持、整備を図る地区として位置づけます。

2) 商業・業務地

- ・中心的な商業、業務機能は主として都心軸周辺に集積を図るものとし、日常的な利便性をまかなく商業機能を区分して、次の各地区を配置します。

中心商業・業務地（図示は赤）

- ・都心軸沿いの商業地域を「中心商業・業務地」として配置し、片町、香林坊周辺、武蔵周辺及び金沢駅周辺は中心商業地として商業機能の集積を図る地区、都心軸駅西側及び南町周辺は中心業務地として業務または流通機能の集積を図る地区として位置づけます。

地域商業地（図示はピンク丸）

- ・金沢駅を除くＪＲ北陸本線鉄道駅周辺や、**交通の利便性の良い環状道路と主な放射幹線道路の結節点及び既存の商業集積地区**を「地域商業地」として配置し、地域の日常的な買い物など生活の利便性を向上させる施設の集積を図る地区として位置づけます。

3) 工業地

- ・工業地は、都市型産業や一般工業などの業務形態の特性や、計画的に整備された工業地の状況を基に、住環境との関係や物流の利便性に配慮して、次の各地区を位置づけます。

生産機能地区（図示は青）

- ・外環状道路の外側を基本として、金沢港周辺、金沢テクノパーク、専光寺安原地区など計画的に整備された工業地区を「生産機能地区」として配置し、新規工場の誘致や市街地内の工場の再編を進める地区として位置づけます

都市型産業地区（図示は紫）

- ・外環状道路の内側において、古府、松島地区、犀川右岸、高柳地区など既に一定の企業立地の進む地区を「都市型産業地区」として配置し、住環境との調和が可能な企業の立地を促進する地区として位置づけます。

流通業務地（図示は赤紫丸）

- ・北陸自動車道や外環状道路のインターチェンジ周辺及び既に本市の物流拠点となっている中央市場及び問屋団地などを「流通業務地」として配置し、広域的な交通結節点としての利便性を活かした流通業務機能の整備集積を図る地区として位置づけます。

4) 沿道複合地区（図示なし）

- ・都心軸を除く主な**放射環状道路**の沿道を「沿道複合地区」として配置し、地域の利便性を支える商業機能や職住近接した業務機能及び集合住宅などの立地が行われる地区として位置づけます。

5) 農業環境保全活用地区（図示は緑斜線）

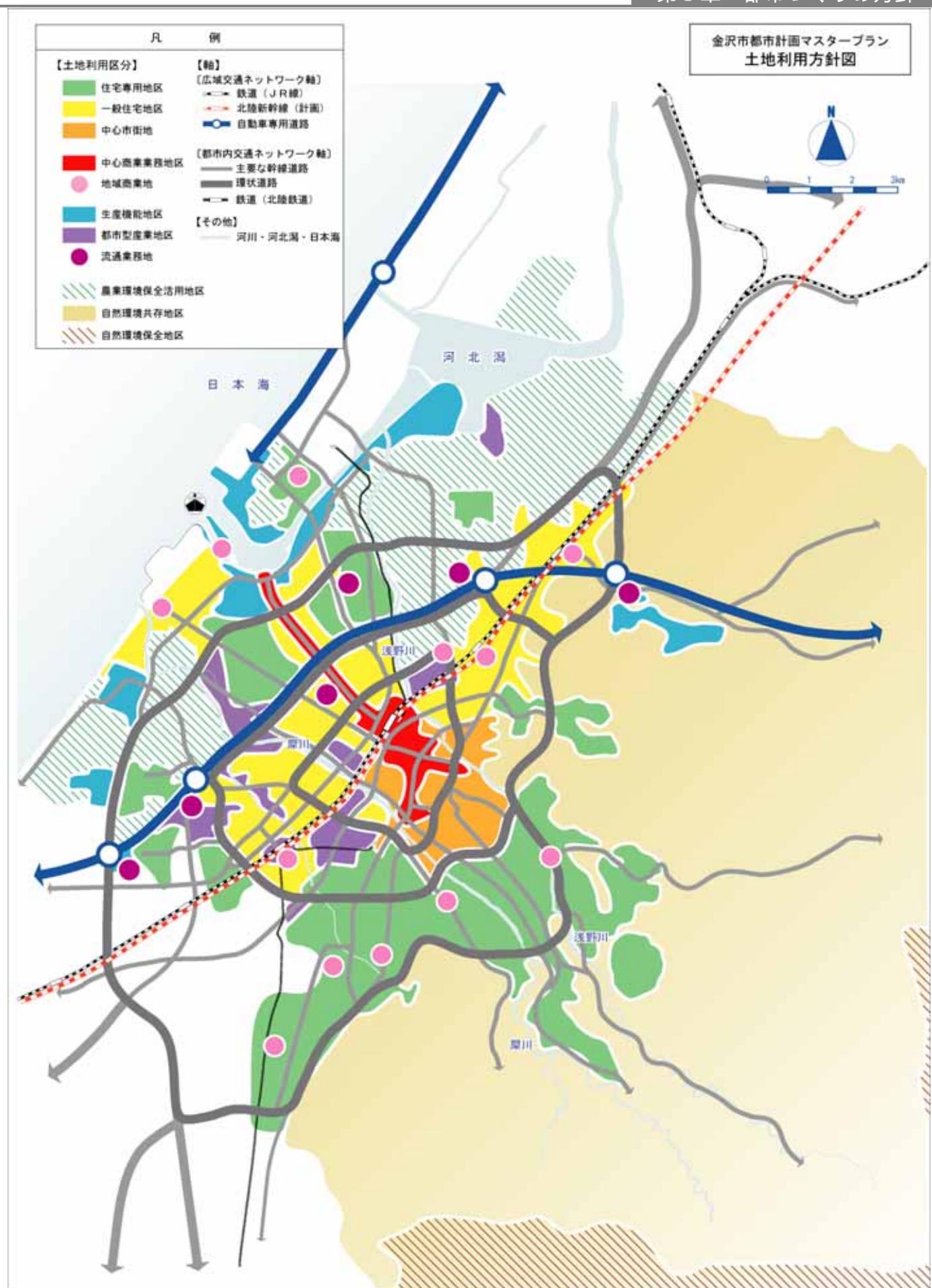
- ・市街地以外の平坦地で都市構造上の農業環境ゾーンとなる地区を「農業環境保全活用地区」として配置し、**農業基盤の保全**を基本に、**耕作放棄地の防止、高齢化が進む集落環境の維持、活性化**に向けて、一定のレクリエーション的活用などを進める地区として位置づけます。

6) 自然環境共存地区 (図示は黄土色)

- ・市街地以外の中山間地で、都市構造上の自然環境ゾーンとなる地区を「自然環境共存地区」として配置し、人々の生活の営みと自然との共存の中で、里山の荒廃防止、高齢化が進む集落の維持に向けて、自然を活かしたレクリエーション的活用など、都市部の住民との交流を育む地区として位置づけます。

7) 自然環境保全地区 (図示は黄土色斜線)

- ・市街地以外の山間地で、都市構造上の自然環境ゾーンとなる地区を「自然環境保全地区」として配置し、山林やそこに生息する動植物などの自然環境の保全を基本とする地区として位置づけます。



3 2 都市基盤整備の方針

都市づくりの方針のもと、人口減少社会に対応し得る土地利用を目指して都市整備を推進していきますが、今後長期に渡る土地利用の適正化と効率化を実現するためには、公共交通主体の交通体系の構築が重要な鍵を握ることを認識し、ハード、ソフト両面において整合のとれた総合的な施策展開を進めています。

また、持続可能なまちづくりを目指すため、ライフサイクルコスト低減や施設延命化などの維持管理面にも配慮しながら、世界都市金沢の実現に向けて様々な都市整備に取り組みます。

（1）市街地整備の方針（市街地基盤づくり）

1) 中心市街地

- ・中心市街地は、商業、業務機能の集積を図り、都市全体の核を形成する上で最も重要な位置を占めることから、「**第4章 重点地区のまちづくり方針**」で詳しく述べることとします。

2) 都心軸

- ・片町～香林坊～武蔵ヶ辻～金沢駅～金沢港に至る沿道及びその周辺を「都心軸」と位置づけ、本市の近代化を支え、都市全体の核となることを目的に、中心的な商業、業務機能の集積を図ることとします。
- ・片町～金沢駅に至る中心市街地ゾーンでは、中心商業・業務地として機能集積を図るとともに、バスをはじめとした公共交通機能の充実を図り、賑わいと魅力ある都心空間の形成を推進します。
- ・金沢駅～金沢港に至る沿道では、流通、業務機能を中心とした機能集積を図るとともに、北陸自動車道や外環状道路などの交通機能を活かした活用を進め、活気と活力のある副都心の核の形成を推進します。
- ・都心軸は金沢交通都市圏の公共交通の最重要幹線であるが、北陸新幹線の開業を控え、新たに迎える来街者の市内外への2次交通の起点としての役割が求められ、公共交通を主体とした交通結節機能の充実を推進します。

3) 一般市街地

住宅地

- ・人口減少社会に対応していくために、基本的に新たに**市街化区域編入を伴う**住宅地の拡大は行わないものとします。
- ・既存市街地については、空き地などの有効活用や各種基盤整備などを進めるほか、**建物の高さ混在が問題となっている地区**においては、**高度地区の導入に引き続き、地区計画等の活用により、住環境の向上に努めています。**

- ・良好な住宅地については、地域住民との協働により地区計画やまちづくり協定等の普及を進め、住環境の保全を推進します。
- ・郊外部の住宅地内に点在する残存農地については、宅地化の進展を基本としつつも、市街地の貴重な環境空間として機能を見直します。
- ・住工混在地区については、多様な用途の調和の中で良好な住環境を確保することを基本としつつ、適宜用途地域の見直しや特別用途地区的指定、地区計画、まちづくり協定等の活用により、土地利用の整序、住環境の改善を推進します。
- ・基盤が未整備な住宅地については、地区計画や個別の道路改良事業等により基盤整備を図り、住環境の改善に努めます。
- ・現市街化区域内の大規模な未利用地や工場跡地については、地区に応じた適切な市街地整備手法を検討しながら、事業者や周辺住民とともに土地の有効利用に努めます。
- ・中心市街地ゾーンなどに多い老朽木造密集地区など、防災上問題のある地区については、住民との協働により、地域の歴史性、街並みに応じて街並み誘導地区計画、連担建築制度、独自の防火条例、ミニ区画整理事業、共同建て替え等による市街地再整備や、防災都市整備条例等を活用した防災機能向上などの環境整備に努めています。

商業・業務地

- ・商業環境まちづくり条例の主旨に則り、中心的な商業、業務機能と地域及び郊外の生活を支える商業機能を区分し、都市全体の適切な機能配置と役割分担を進めることにより、様々な小売業が活力ある商業活動を持続的に営まれるために必要な整備、支援及び制御を進めます。
- 中心商業・業務地**
- ・本市の中心的商業、業務機能の集積を図り、賑わいと活力のある商業、業務地の形成を推進します。そのために地区計画などのまちづくりルールの導入を推進し、必要となる規模要件などの適切な制御を行っていきます。
- ・中心商業地における老朽ビルの建て替えについて、地権者や事業者との協働により安全で快適な商業環境形成を目指して取り組んでいきます。
- ・より広範囲で多様な来街者に、快適で魅力的な買い物環境を提供するために、公共交通の利便性を高めるとともに、バリアフリーや歩行環境の整備を進め、歩いて楽しい商業空間づくりを推進します。
- ・南町界隈については、既存の業務機能の集積を基盤に、老朽ビルの建て替えや空地での建物新設を進めるとともに、空室の解消など利用活性化にも取り組んでいきます。

- ・駅西側については、区画整理で整備された基盤を活用して、流通、業務機能の立地促進を推進するとともに、地区計画などを活用して沿道景観としても風格ある副都心づくりを推進します。

地域商業地

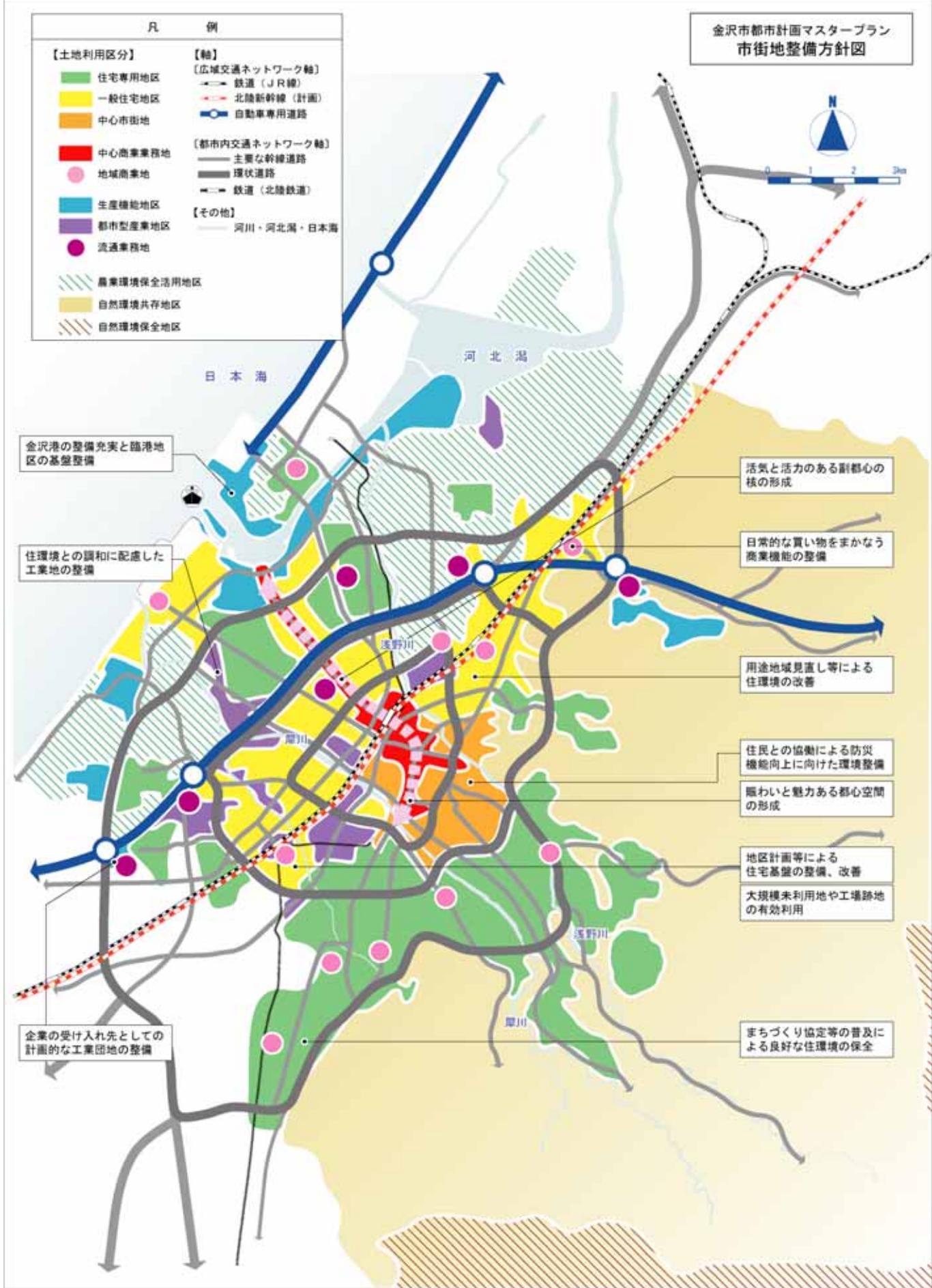
- ・既存商店街を基盤に、周辺地域の日常的な買い物をまかなう商業地機能の再生、整備事業を支援します。

工業地

- ・新産業の創出と地場産業の活性化により本市のものづくり産業の活性化を図ることを目的に、効率的な経営が可能となるよう必要な基盤整備を推進します。その基盤整備にあたっては、各工場や事業所の需要と特性並びに周辺環境との調和に配慮し、生産機能地区、都市型産業地区、流通業務地区に大別し、対象となる企業を考えて進めるとともに、外環状道路や金沢港などの交通基盤整備も促進します。
- ・金沢港周辺においては、港湾活用型企業の受け皿として大水深岸壁をはじめとする必要な基盤整備を促進します。
- ・金沢テクノパークについては、研究開発型先端技術企業等の高度技術産業の受け皿として基盤整備がなされており、その企業誘致に努めます。
- ・その他の生産機能地区は、新たな進出企業や市街地整序による企業の移転受け入れ先として、計画的な工業団地の整備に努めています。
- ・都市型産業地区については、情報産業等の住宅地と共にできる企業の立地、誘致場所として、住環境との調和に配慮した整備に努めています。
- ・流通業務地区については、より効率的な企業展開が可能となるよう、外環状道路や北陸自動車道などの交通基盤の整備、充実を図ります。

沿道複合地区

- ・幹線道路に面する利便性を活かした沿道サービスや周辺地域の日常生活サービスなどを提供する施設が、集合住宅などと複合して立地する場所として、秩序ある適正な市街化を誘導します。



(2) 交通施設等整備の方針(交通体系づくり)

1) 道路

広域道路

- ・石川県内の市町から県外、三大都市圏などの各都市を結ぶ体系的な道路ネットワークを形成することにより、物流の円滑化と人的な交流拡大を推進し、都市の活性化を図っていきます。
- ・北陸自動車道を基軸に東海北陸自動車道、能越自動車道、金沢能登連絡道路により、全ての方面に向けた体系的な高速道路ネットワークを形成し、これらの整備と拡充を推進します。
- ・国道8号を基軸に、各種国道や広域県道等により都市間連携道路ネットワークを形成し、渋滞対策や安全対策など必要な整備と拡充を推進します。

都市内道路

- ・内、中、外の3環状道路と東西南北を連結する放射道路による放射環状道路ネットワークを本市道路網の骨格と位置づけ、その早期完成と機能拡充を推進します。
- ・広域道路とも密接な関係を有するとともに、まちなか交通の軽減のためにも、金沢外環状道路海側幹線の早期開通と金沢外環状道路山側幹線の4車線化を推進します。
- ・都市内の円滑、安全、快適な移動の確保を目指し、放射環状道路を補完する幹線道路の整備やボトルネック交差点の改良を推進します。また、この整備にあたっては、環境保全、公共交通の利便性向上、渋滞解消、自転車走行及び歩行環境の改善並びに中山間地等の集落間連絡などに配慮して取り組んでいきます。

生活道路

- ・生活道路の整備にあたっては、生活者を主役に歩行空間、コミュニティ空間としての機能にも十分な配慮を行い、市民の生活を支える安全、安心な道路としての整備計画を策定して取り組みます。
- ・まちなかに多く存在する、歴史的特性を有する細街路や広見などの生活道路については、金沢らしい魅力の保全と防災的な機能向上を両立させるという目的のもと、住民と協働してそのあり方を検討して整備を推進していきます。
- ・「歩けるまちづくり条例」の主旨に則り、安全で安心な生活道路空間を実現するため、住民と協働して、通過交通の抑制などのソフト的な取り組みも進めていきます。



2) 公共交通

- ・高齢化の進行、地球的環境保全、まちなかの賑わい創出という社会的な背景に加え、細街路が多い金沢の特性に配慮しつつ新幹線開業を都市の活性化につなげるために、公共交通を主体とした交通体系の構築を本市の最重要交通政策の一つと位置づけ、その実現に取り組みます。
- ・「公共交通の利用の促進に関する条例」の主旨に則り、「新金沢交通戦略」のもとでソフト施策を中心とする戦略的取り組みを進めます。
- ・公共交通の促進のために、自動車の総量抑制と公共交通優先策を組み合わせた施策について検討を進めます。
- ・地域特性に応じた4つのゾーニングと公共交通重要路線の指定を行い、将来的な公共交通サービス水準を提示し、サービス水準確保に向けて様々な施策展開を推進します。
- ・より広い範囲の市民が公共交通を利用するため、また、過度にマイカーに依存したライフスタイルから転換を図るためにパーク＆ライドシステムの充実を重点施策として推進します。
- ・公共交通の活性化は、利用者意識が大きな鍵を握ることから、市民一人ひとりの意識啓発に努めるとともに、公共交通事業者へも利便性の向上や各種交通施策への協力を促してまいります。

バ ス

- ・バス運行の定時制を確保するとともに、速達性、快適性を向上させるため、快速バス運行の拡大、バスレーン、バス停の拡充、公共交通優先システム（PTPS [Public Transportation Priority Systems]：信号機等のコントロールによりバスの運行を円滑にさせるシステム）の拡充などを進めます。
- ・金沢バストリガー方式の活用をはじめとして、利用者との協働によるバス利用活性化の取り組みを促進します。
- ・事業者、利用者の双方にメリットのある中で、様々な利便性向上策を展開し、利用促進に努めていきます。
- ・中心市街地の活性化と地域コミュニティ形成に向けて「金沢ふらっとバス」の利用を促進します。
- ・環状バスの導入により、公共交通重要路線との結節点での乗り継ぎを可能とし、人々の多様な移動ニーズに対応可能なバス路線網の実現を目指します。

鉄 道

- ・北陸新幹線の整備促進を図り、早期開業を目指します。
- ・鉄道の利便性向上を図るため、連絡性や料金体系についてもバスとの連携強化が図られるよう事業者に協力を求めていきます。

- ・北陸新幹線の開業に伴う並行在来線については、金沢都市圏における公共交通サービス水準確保に配慮し、**生活鉄道としての活用を念頭に新駅設置の可能性を検討するなど**、必要な取り組みを進めます。
- ・北陸鉄道石川線及び浅野川線については、バスとの乗り継ぎ連携をはじめとする利便性向上を図り、利用活性化に努めています。

新しい交通システムの導入検討

- ・新しい交通システムの導入については、解決すべき課題も多いことから、当面は既存のバス交通を主体とした公共交通利用者の活性化に取り組みます。
- ・新幹線の開業を見据えて、市民、来街者ニーズに対応した分かりやすく便利な交通システム“まちなかシャトルバス”的導入を目指します。
- ・こうした取り組みを踏まえ、公共交通の更なるステップアップとして本市にふさわしい新しい交通システムのあり方を検討していきます。

中山間地域におけるモビリティの確保

- ・都心部に比べ公共交通網が脆弱な中山間地域に対しては、**山間地ネットワーク道路の整備推進に努める一方で、スクールバスやジャンボタクシーなどの活用も含め、地域の特性に応じたモビリティ確保の取り組みへの支援に努めています。**

マイカーから公共交通への意識改革

- ・人と環境にやさしい公共交通利用の促進を積極的に推進するため、マイカーから公共交通への利用転換など、市民や企業、学校などを対象とした意識啓発の充実に努めます。

3) 自転車・歩行者

- ・環境保全、コミュニティ形成、安全、安心な空間創出の観点に加え、**まちなかの賑わいは人々が歩いてこそ実現するという観点から、まちなかゾーン内では歩けるまちづくりを推進し、生活者と来街者双方の視点から歩行環境と自転車走行環境の整備を推進していきます。**
- ・まちなかの安全性と回遊性を高め、観光スポット、用水や町並みなどの金沢の魅力を効果的に結びつけるために「まちなか歩行回廊」の整備を推進します。
- ・自動車と歩行者が分離され、安心して買い物や散歩ができる商業空間づくりを推進します。
- ・過度に自動車に依存した生活スタイルからの転換を図り、通過交通の排除や生活道路の整備により、安全、安心そして快適な歩行環境の形成を推進します。

- ・限られた道路空間において、自動車の総量抑制や様々な空間利用の工夫を行い、できる限り、安全な**自転車**走行空間の創出と体系的なネットワーク構築を目指して、走行環境づくりに取り組みます。
- ・日常的な自転車利用の利便性を向上していくために、サイクル＆ライドの推進や駐輪施設の整備、放置自転車の防止などを推進します。
- ・これら歩行経路や自転車走行経路の計画や整備にあたっては、鉄道駅などの交通拠点及び学校、公園、福祉施設等の主要施設の効率的な連結に配慮するとともにバリアフリー化を推進します。

4) その他交通施設

- ・鉄道駅や主要なバス停、パーク＆ライド駐車場などの交通結節点においては、**バリアフリーに配慮するとともに**、容易に相互乗り継ぎ可能な交通ネットワークの形成を図ることで、公共交通の利便性向上、市街地内道路の渋滞緩和を図ります。

駅前広場

- ・駅前広場は、複数の交通手段の結節点として多くの人々が集まる場所であることから、公共交通利便性向上の鍵を握る施設として、また人々が集い憩う公共空間として整備するとともに、利用活性化を推進します。
- ・金沢駅については、北陸新幹線開業を見据えて、完成した駅東広場利用の活性化を進めるとともに、駅西広場については、バリアフリー化、交通結節機能の向上及び賑わい創出を目的に再整備に取り組みます。また、本市交通機能の最重要拠点として、**乗り継ぎ機能の強化を図るとともに**、東西広場からこれにつながる都心軸を含めた一体性のある機能強化と利用活性化を推進します。
- ・西金沢駅、東金沢駅、森本駅については、自由通路及び東、西口広場の整備を行うほか、**鉄道を利用しやすくするための環境として駐車場や駐輪場などを確保するなど**、交通結節点としての機能充実を図ります。今後は、着手の遅れた西金沢駅周辺の整備を急ぐとともに、暫定状態の森本駅東口の整備についても取り組んでいきます。

駐車場

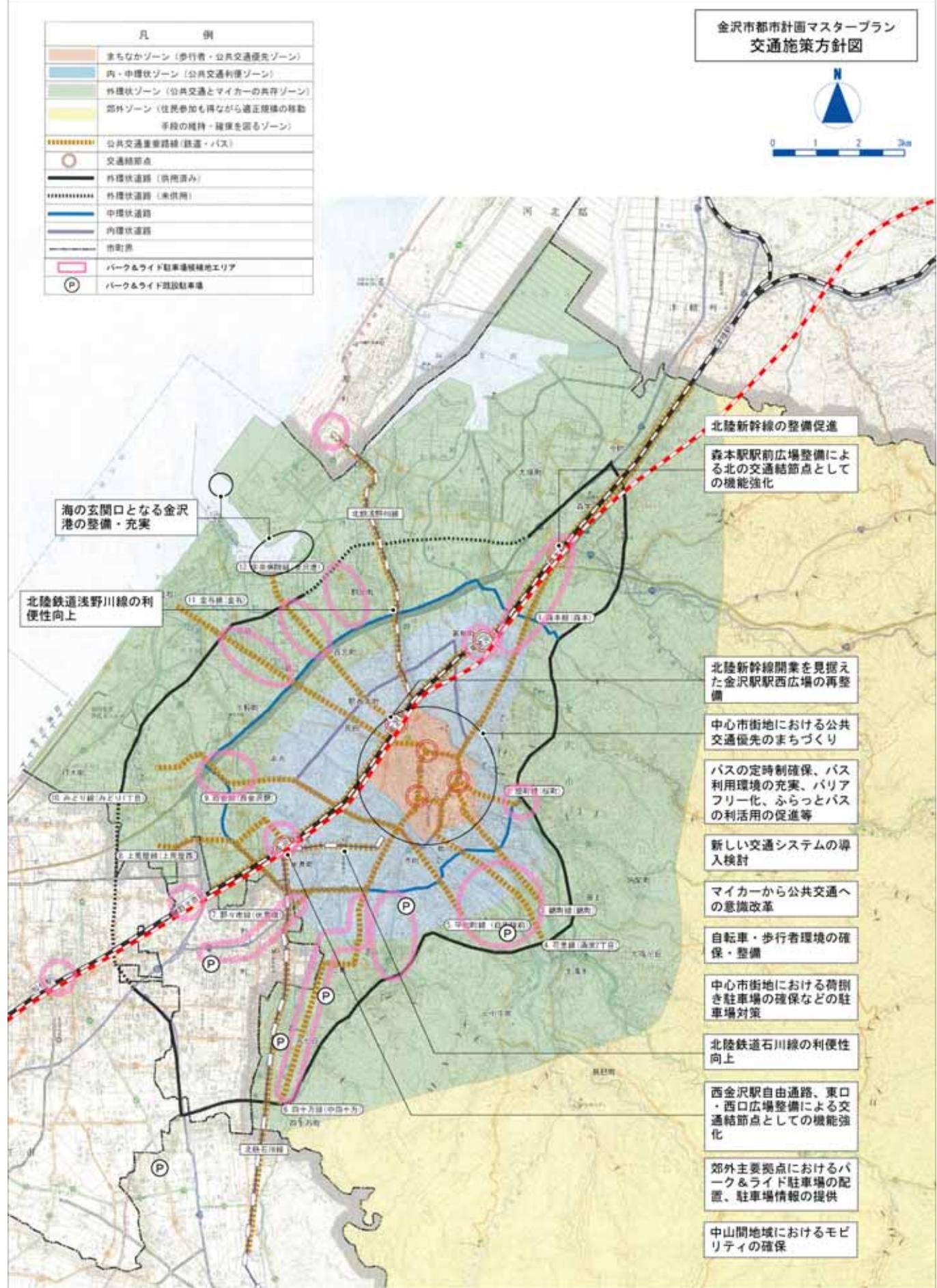
- ・「駐車場の適正な配置に関する条例」の主旨に則り、公共交通政策、交通渋滞解消施策、歩けるまちづくり関連施策などを組み合わせた交通政策推進とまちなかの虫食い状の空洞化に対応し、中心部の活性化と定住促進の両面の観点から**まちなかの駐車場の適正配置を実現するための施策を展開していきます。**

- ・中心業務地においては、業務用車両のための駐車場の整序を促進し、背後の住宅地への滲み出しの解消を図ります。
- ・月極駐車場の借り上げや利用助成などにより、中心市街地における荷捌き駐車場の確保に努めます。
- ・まちなかの住宅地においては、居住者に必要な駐車場を確保しつつ、いたずらな駐車場化の抑制に努めます。
- ・「金沢市パーク・アンド・ライド駐車場の配置に関する基本指針」により計画的にパーク＆ライド駐車場の整備を推進します。
- ・過度な自動車誘導とならないように配慮しつつ、駐車場を探す迷走車や駐車場の入庫待ち行列を解消するため、情報通信技術を活用したより有効な駐車場情報の提供を目指します。

港 湾

- ・地域企業の国際競争力の強化や物流経費の削減、グローバルな物流体制の整備を図るため、海の玄関口となる金沢港の整備、充実を進めます。
- ・多目的国際ターミナル等の整備により、国際定期航路や国内定期航路の拡充を進め、交流の促進を図っていきます。
- ・物流基盤施設の整備を進め、金沢港隣接地区において、全国に誇るもののづくり産業クラスターの形成に資する企業集積を図ります。
- ・無量寺、戸水埠頭においては、人流、物流の交流拠点として、賑わい空間の創出を図っていきます。

産業クラスター：特定の産業分野について、資材供給、生産、流通、販売などの関連企業や、金融、教育、研究などの支援機関が地理的に集中し、それらが競合しながら有機的に結びついている状態



(3)公園緑地整備の方針(憩いの場づくり)

1)公園・緑地・その他緑の整備、保全、活用の考え方

- ・金沢の個性である豊かな自然(緑)を守るとともに、人と環境にやさしい緑豊かなまちづくりを目指します。地形、自然の特性を読み取り、緑の自然環境の保全活用を進めるとともに、人口配置、土地利用、歴史性に配慮して公園や緑地を配置、整備します。
- ・**また、市民の協力を得て民有地緑化を推進するとともに、緑としての農地の見直しを図り、都市全体の緑の環境を向上します。**

「緑の生命線」をまもり、いかす(緑の保全、活用)

- ・“地形が生み出す緑”や“歴史が伝える緑”を「緑の生命線」として位置づけ保全活用します。

緑あふれる都市をつくる(緑の創出)

- ・都市公園の整備と充実、市街地における緑の環境づくり、諸施設における緑の充実等によって、市民に愛され、魅力あふれる緑豊かな都市を目指します。

緑の輪を広げる(緑のネットワークの形成)

- ・金沢市全体を対象に“森の都”にふさわしい緑のネットワークの形成を目指します。

緑と親しみ、緑をつたえる(緑化活動の推進)

- ・市民、企業、行政の一体的な協力体制をつくり、都市全体の緑化活動を推進します。

2)豊かな自然の保全活用

- ・日本海、河北潟、犀川、浅野川などの河川、背後の山間地、台地や丘陵地などの斜面緑地をはじめとする地形が生み出す緑の保全活用を推進します。
- ・金沢城、兼六園、寺社の緑、堀、用水の緑などの歴史的由来を持つ緑の保全活用を推進します。
- ・これら緑の保全活用にあたっては、風致地区や緑地保全地区並びに斜面緑地保全条例、寺社風景保全条例などの制度を積極的に導入、創設して取り組んでいきます。

3) 公園緑地の配置方針

- ・都市公園及びこれに準ずる緑地において、実質的な緑地面積として1人当たり 25 m²以上（面積約 1,050ha）となることを目指し、人口配置や土地利用に配慮して、適切かつ均衡ある公園緑地の整備、配置を図ります。
- ・整備にあたっては、個々の公園本来の目的に加え、自然との共生、歴史文化性の反映など付加的価値にも配慮するとともに、特に防災拠点としての機能向上を重要な目的として位置づけていきます。
- ・市民提案による公園整備や住民による管理委託の推進など、市民との協働による公園緑地の整備、管理、活用を推進します。

都市基幹公園

- ・大乗寺丘陵総合公園をはじめとする金沢市を代表する総合的な公園の整備、充実を推進します。
- ・兼六園及び金沢城公園については、歴史的文化遺産としての価値に配慮しつつ、その保存、復元に努めます。
- ・多様化するスポーツ、レクリエーション需要に対応するため、市内3箇所に運動公園を配置し、本市の競技スポーツの拠点として整備と充実を推進します。

住区基幹公園

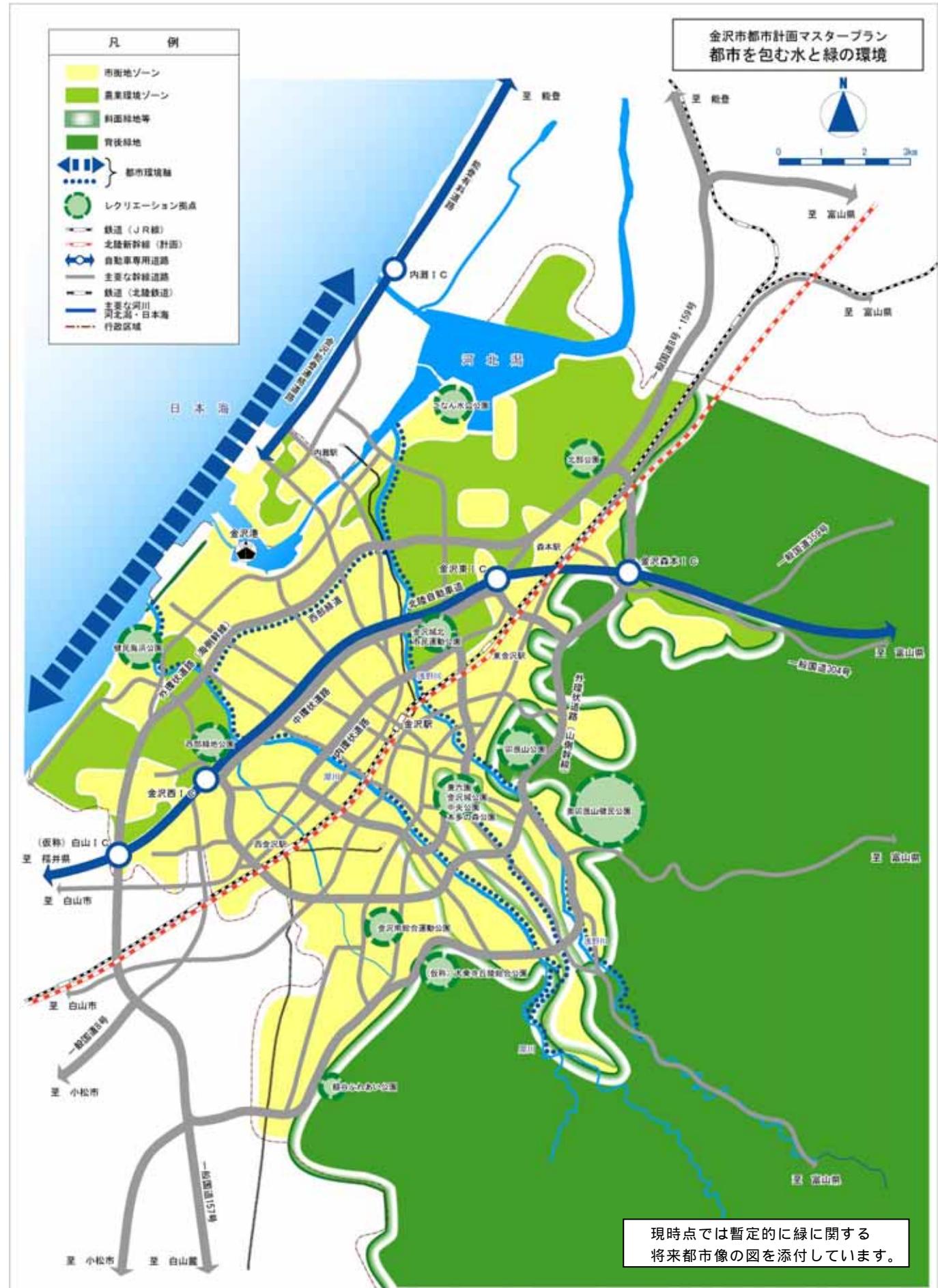
- ・高齢者から子供まで安全、安心に利用できる身近な憩いの場となり、また、地域コミュニティや防災活動の拠点となる街区公園、近隣公園、地区公園を誘致圏等に配慮して設置します。
- ・配置においては、公園に匹敵する寺社境内などの緑地や空間の積極的な活用も検討します。
- ・公園の清掃や施設の見回り（点検）などの管理について、講演愛護制度の普及に努め、地域住民の積極的な愛護活動により、市民生活に密着した公園となることを推進します。

その他の公園緑地

- ・本市の都市環境軸である犀川、浅野川をはじめとする河川沿いや西部緑道などの市内の緑をつなぎ、ネットワーク化を図る重要な緑の空間として保全、整備、活用を推進します。
- ・卯辰山墓園、内川墓園の充実を図るとともに、野田山墓地についても歴史性に配慮した整備、再生を推進します。
- ・寺町台、小立野台の斜面緑地や、その周縁部に残る貴重な緑地を積極的に保全、整備し、美しい都市景観の形成を図ります。

4) 都市全体の緑の環境向上のために

- ・寺社境内地の叢林の保全を推進します。
- ・街路樹は、歩行者や沿道の快適性を向上させるとともに、都市内の緑を有機的に結ぶ役割を担っており、その整備、充実を推進するとともに、アドプト制度などを活用し積極的な市民協力による管理を図っていきます。
- ・市民や企業の協力を仰ぎ、公共空間以外における緑化の推進を進め、緑に包まれた都市の実現を目指していきます。そのために、都市緑化法に基づく緑化地域制度の積極的な導入を推進します。
- ・環境教育とともに、緑の重要性を学び、緑を愛する心を育てるための啓発、教育に努めています。
- ・市街化区域の農地は、これまで宅地化されるべき土地として位置付けられてきましたが、市民農園や菜園付き宅地など新しい土地利用用途の一つとして考えることができます。また、雨水流入や延焼防止などの防災的効果、ヒートアイランドなどの環境保全的効果も見込めるところから、都市環境形成における貴重な緑地として、再認識し、その位置付けや対応について改めて検討をしていきます。



(4) 農地と森林の整備、保全、活用の方針（農林基盤づくり）

1) 農地の整備、保全、活用の考え方

- ・農地は、農作物を供給する場所であるほか、環境保全、災害防止など多くの役割を持っており、市民の安定した生活に貢献しています。
- ・近年、農業従事者の減少や高齢化が進み、集落機能や、農業生産、農地保全活動が停滞しつつあり、農地の荒廃がみられます。特に、中山間地域において、その傾向が著しく、地域の活力が低下しています。
- ・土地基盤整備等による農作業の効率化や、担い手農家への農地利用集積、また、集落ぐるみの営農活動により、生産性の高い農業をめざし、併せて優良な農地の保全、確保を推進していきます。
- ・農林業を主体として散在する多くの中山間地集落は、里山や農地を守る重要な役割を果たしていますが、過疎化と高齢化が進み、集落機能の維持が困難な状況にあることから、地区計画制度を活用した適正な基盤整備の誘導のほか、新規就農者への支援、都市住民等との交流を通じて農業の担い手の育成、確保と地域の活性化を図るための施策を住民と協働で展開していきます。

2) 森林の整備、保全、活用の考え方

- ・森林は、地球温暖化の防止、水源のかん養、災害の防止など様々な公益的機能を持っており、市民生活にやすらぎと潤いを与えてくれます。
- ・近年、山村の過疎高齢化や林業収益性の悪化等から、所有者による管理があろそかになり、公益的機能の低下が危惧されています。
- ・「金沢の農業と森づくりプラン」に掲げる施策の実施により、農林業の活性化を図るとともに市民総ぐるみの森づくりを促進し、森林の再生整備を進めます。
- ・森林の特性に応じた整備、保全、活用の考え方について、次のゾーン別に示します。

環境共生林

- ・風致地区及び海岸の森林で、病虫害の予防や枯損木の整理により、森林の健全性を保持するとともに、身近な森林リクリエーションの場として活用します。

環境保全林

- ・里山の雑木林やスギなどの人工林で、放置竹林や老齢木の伐採、人工林の間伐などの森林整備を進め、健全な森への回復を図ります。

環境保存林

- ・奥山の天然林で、これまで人の手を加えないことで良好な環境が維持されてきたことから、今後も自然の遷移に委ねることとします。

3 3 都市環境整備の方針

(1) 都市環境形成の方針（自然と歴史を活かした景観づくり）

1) 自然環境の保全

- ・金沢の都市としての成り立ちの基礎となった卯辰山、小立野台、寺町台の三丘陵とその間を流れる犀川、浅野川の両河川によって形成される金沢特有の自然地形を保全します。
- ・特に金沢の起伏のある地形を造り、市民に憩いとやすらぎをもたらす斜面緑地を動植物の貴重な生息地又は生育地として守り、都市の防災機能を確保しながら、市民と一体となって豊かなまちの緑として保全します。
- ・また、市街地背後の借景となる山裾やまちなかの貴重な緑地空間など、自然環境に恵まれた場所については、風致地区などの指定によって、その保全を図ります。
- ・金沢を流れる代表的な2つの川、犀川と浅野川によって作られる空間は、市民にやすらぎと潤いを与えるとともに、市街地の中で自然と歴史を感じさせる場として、その環境を保全します。
- ・日本海の海岸線や河北潟周辺は、野鳥や水生植物などの貴重な生息、生育空間として、潤いある水辺空間の保全に努めます。
- ・中山間地域を取り巻く里山や平野部に広がる田園についても、人々の手が加わることで輝きを増す自然環境として、保全に努めます。

2) 歴史的風致の維持及び向上

- ・金沢の個性を形成する歴史的遺産については、その本質的な価値の保存はもとより、景観的な側面からもその価値を認識し、既存の制度に加え新しい制度の活用も視野に入れて「金沢市歴史的風致維持向上計画」に基づいた取り組みを推進します。
- ・歴史的風致を形成する文化財建造物に代表される多様な歴史的建造物の積極的な保存と活用を図ります。
- ・歴史的風致を形成する伝統的建造物群に代表される歴史的な街並みを保全し、周辺環境の調和を図ります。
- ・歴史的風致に息づく伝統行事、伝統文化及び工芸技術の継承、育成を図ります。
- ・まちづくりと連携して文化財と周囲の環境を一体として保全を図ります。
- ・こまちなみ保存条例の主旨に則り、住民と協働して、通りとしての景観と金澤町家の継承、活用を推進します。
- ・寺社風景保全条例の主旨に則り、市内に残る寺院や神社及びその境内や樹林の保全を推進します。

- ・城下町の形成と深く関わる惣構堀については、その価値に基づき可能な場所での復元整備を検討します。
- ・城下町の防衛、防火機能や人々の生活、灌漑機能を果たしてきた用水については、今後とも可能な場所での開渠化、年間通水に努めます。

3) 都市景観の形成

- ・金沢特有の自然地形、歴史的要素などの守るべきものを保全し、その上で、都市の近代化にも配慮して、金沢らしい個性の確立を図ることを基本とします。
- ・金沢市における都市景観は、市民とともに都市の成長をよりよい方向に導いていくために不可欠な要素と考え、人々の生活に根ざしたものであることに配慮しつつ、景観の持つ公共性に対する市民の理解と協力を獲得するとともに、**市民や事業者との協働による景観まちづくりを推進していきます。**
- ・景観形成は都市環境の改善の重要な要素であることから、今後は、**新たな景観条例による区域の拡大、見直しを進め、より効果的で、分かりやすい景観誘導の仕組みづくりに取り組んでいきます。**
- ・金沢市らしい個性ある景観形成を実現するために、以下の事項を柱に景観形成の方針を策定し、具体的な取り組みを進めます。実施にあたっては、景観法の導入、必要な条例の制定並びに各種届出制度との連携などにより、効果的で分かりやすい制度構築に配慮します。

総合的かつ効果的な景観誘導を進めます

- ・市全体の総合的かつ充実した景観誘導を進めるため、これまでの中心部主体の取り組みから、市域全体を対象に**景観法に基づく景観計画区域への指定や景観条例の見直し等により**、総合的な景観誘導を推進します。

高さの誘導を進めます

- ・都市全体の形態を整序していくために、自然地形や歴史的遺構との整合、眺望景観の確保などに配慮して高さの誘導を推進します。
- ・都市全体の形態として、都心軸を尾根として金沢駅周辺が最も高く、また幹線道路沿いに対して囲まれる街区が低めとなることを基本とし、高さは卯辰山、金沢城などに配慮して設定することとします。
- ・街並みとしての最高限度を規定し、**統一された家並みに一定の高さの調和を確保**するために、高度地区、地区計画などの手法を導入していきます。

建築物の形態、意匠及び色彩の誘導を進めます

- ・周辺の街並みや自然地形と調和の取れた建築物となるよう適切な誘導を進めます。

- ・**景観特性を反映した**景観形成基準に提示するとともに、地区計画、**景観地区の指定やまちづくり協定等の締結**により、地区毎に特徴あるルールづくりを目指します。

公共空間における景観形成を進めます

- ・公園、広見、道路などの公共空間に対して、利便性や歴史性に配慮して良好な都市景観の形成を進めます。
- ・それ以外の敷地利用においても、外部から見える部分について一定の景観的配慮がなされるよう必要な施策を検討していきます。

緑地の保全と緑化を推進します

- ・斜面緑地保全条例や緑のまちづくり条例の主旨に則り、都市を取り巻く緑地の保全を積極的に図っていきます。
- ・緑は都市の景観と潤いを向上させる重要な要素であることから、**公共空間の緑化推進のほか、民有地の緑化も積極的に促進します。**

沿道景観と屋外広告物の誘導を進めます

- ・沿道景観形成条例の主旨に則り、通りの特性に応じた沿道景観の形成を目指して、地権者や道路管理者などの関係者が協力して改善に努めます。
- ・沿道の景観を決定づける大きな要素に屋外広告物があり、屋外広告物条例の主旨に則り、周辺や背景及び歴史的な経緯との調和に配慮し、高度地区などの関連する規制誘導手法をあわせて適切な景観形成を推進します。

眺望景観の保全を進めます

- ・金沢は卯辰山や台地など高台から**まちを俯瞰できる場所**が多いこと、また**市街地の背景、借景となる自然景観**は大事な要素であることから、保全眺望点を設け、**その地点からの眺望景観保全**を推進します。

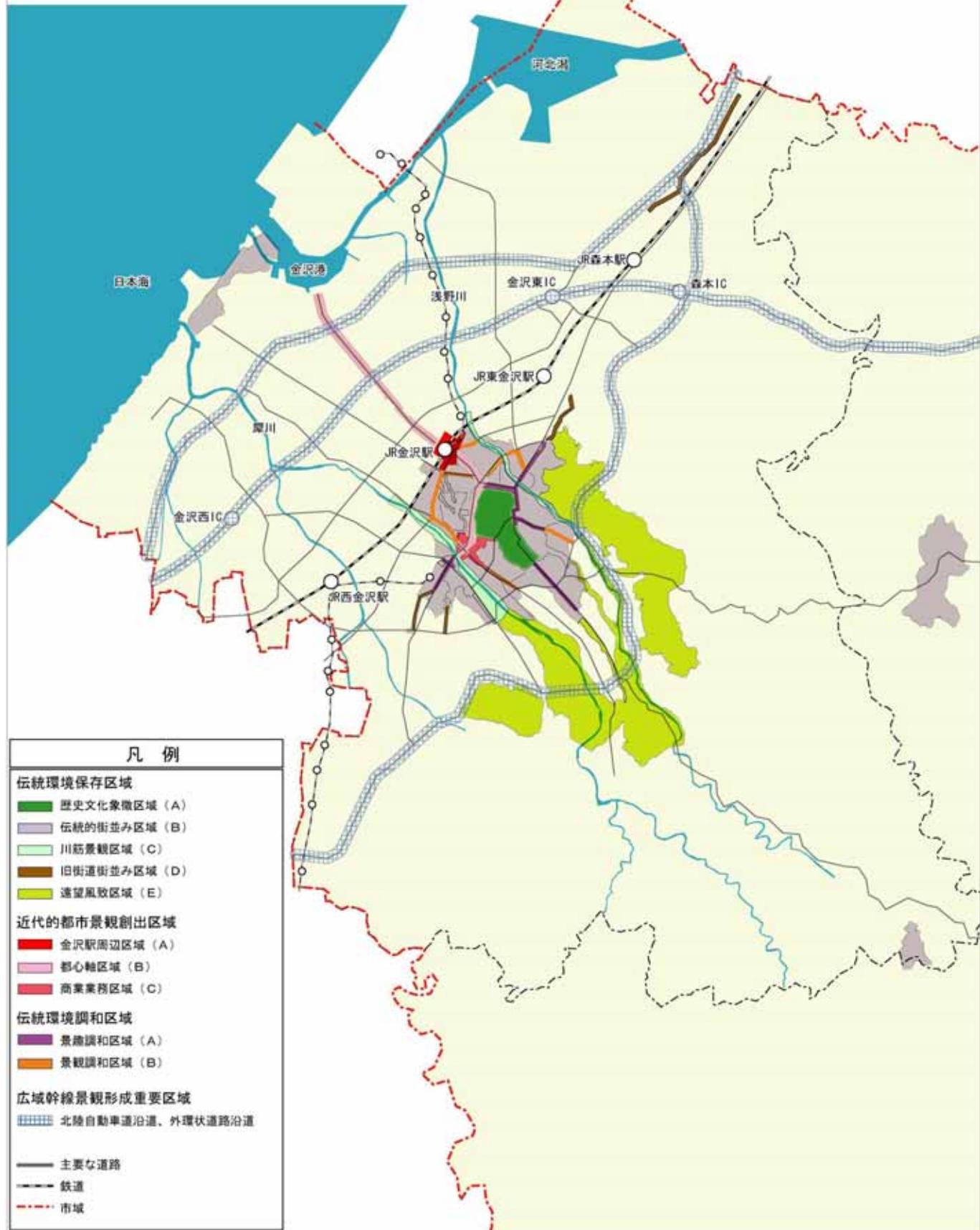
夜間景観の形成を進めます

- ・**各種照明設備や電光掲示板**などは、景観及び周辺環境から大きな影響を与えることから、夜間景観形成条例の主旨に則り、夜間の景観の適切な誘導を推進します。

暮らしに根ざした景観誘導を進めます

- ・良好な景観形成の実現には、市民、事業者の理解と協力が不可欠であることから、市民の理解と意識を高めるとともにNPOなどの具体的な協働についても積極的に取り組んでいきます。
- ・景観形成は、都市環境の保全からも重要であり、これを市民に指示される永続的な取り組みとしていくために、暮らしに根ざしたものとなるよう十分な配慮をしていきます。

金沢市都市計画マスタープラン 環境形成方針図



(2) 安全・安心な都市づくりの方針（安全安心な環境づくり）

1) 都市防災

- ・市民の安全安心な暮らしを確保するため、災害に強い都市づくりを積極的に推進するとともに、災害時等に備えた実践的、体系的計画の策定、見直しを進めます。

災害に強い都市構造の形成

- ・木造密集市街地など防災上危険な地域の面的整備を推進します。
- ・防災安全街区などの整備を推進します。
- ・道路、公園、緑地、河川等を活用した延焼遮断空間の形成を図ります。
- ・災害危険度判定調査に基づく危険度の高い地域については、金沢市における災害に強い都市整備の推進に関する条例に基づく防災まちづくり協定や防災街区整備事業などを活用し、区画道路、広場等の地区施設や建築物、生け垣などのきめ細やかな誘導による地区単位での防災性の向上を図ります。
- ・地域における自主防災リーダーの育成を図るとともに、住民の防災意識の向上を図り、実践的な防災訓練等の活動を積極的に展開していきます

防災性向上のための根幹的な公共施設の整備

- ・災害時の緊急活動を支える幹線道路を骨格とした避難路ネットワークの整備を図り、道路、橋梁などの耐震化を進めます。
- ・防災公園、防災拠点を整備します。
- ・河川の整備及び土砂災害の防止対策を推進します。

住宅・建築物や公共施設の安全性の向上

- ・耐震性の低い住宅、建築物の耐震性向上対策や、耐震性に優れた住宅建築物整備の推進などにより、住宅、建築物の安全性向上を図ります。
- ・宅地の安全性の確保を図ります。
- ・道路、河川、下水道、官庁施設及び学校教育施設等の耐震性向上を図ります。

崖くずれ・地すべり対策の推進（治山）

- ・急傾斜地や地すべり地域における法面対策工事等の土砂災害防止を推進するほか、人的被害の防止のため、土砂災害危険区域の指定地区における土砂災害ハザードマップの作成や周知啓発に努めます。

治水対策の推進（総合治水）

- ・水害に強いまちづくりのため、犀川、浅野川等の河川や内水を適切に管理し、必要な整備を図ります。

- ・河川や下水道（雨水排除施設）の整備を促進するだけでなく、学校、公園等の公共施設をはじめ、一般家庭や事業所などの民間施設への貯留、浸透施設の積極的な配置や、土地利用規制等による浸透域の保全、浸水被害に対する備えをより高めるための浸水実績区域図のPRなど、ハード対策とソフト対策を組み合わせた「総合的な治水対策」の推進により、金沢市域の治水安全度の向上を図ります。
- ・無秩序な開発行為の抑制の他、水源かん養林などの保護を図ります。

雪害対策の推進

- ・国、県、市が連携した除雪体制を整え、積雪時における幹線道路やバス路線等を確保するため、迅速かつ適切な除雪作業を実施します。
- ・町会等の自主的な生活道路の除雪、消雪を促進するため、メディアを通じた市民への周知、協力要請を行うとともに、小型除雪機や消雪用水中ポンプ等の購入を支援します。また、学生ボランティア等による除雪やバス停付近での市民による除雪を支援していきます。
- ・地下水保全の観点から、河川水や下水処理水を活用した消雪装置を設置するとともに、新たな熱源の導入について検討していきます。
- ・冬期に配慮した歩道の拡幅や勾配の緩和、段差の解消、滑りにくい舗装材の活用など、バリアフリー整備を推進します。
- ・特に歩行者の多い歩道の交差点やバス停などのポイントで消雪装置の設置を進めます。

ライフラインの整備

- ・水道、ガス、下水道等のライフラインの耐震化を図ります。
- ・河川の活用等による緊急時の消火用水、生活用水の確保を図ります。

情報通信システム等の活用、整備

- ・災害時などに情報を確保するため、同報防災無線、石川県総合防災情報システムの活用を推進するとともに、金沢ぼうさいドットコムや緊急情報電話案内サービスの活用、庁舎耐震化に併せた総合防災情報システムの整備を図ります。
- ・水害時の被害を軽減するため、地域住民が安全に避難するために必要な情報を掲載した洪水ハザードマップを作成します。
- ・土砂災害警戒区域等における土砂災害ハザードマップや地震時の建物倒壊の危険性、住宅の密集度等の市街地の危険性を示す地震ハザードマップを作成し、地域住民への周知、啓発を図ります。

2) 安全安心な水辺空間の活用

- ・金沢では、犀川、浅野川と大小網の目のように張り巡らされた用水が重要な都市構造をなし、環境、景観、防災上、非常に重要な位置づけを有しております、これらに配慮した河川整備を進めます。
- ・自然環境との共生を重視した河川、用水等の保全、活用、河北潟の水質浄化の研究、推進及び水辺を活かした体験の場の提供など、市民の安全な暮らしを確保しながら、金沢の個性ある自然環境、景観を形成する河川、用水、干潟等の水辺空間の保全、活用を図ります。

3) 防 犯

- ・町会等の団体が行う防犯パトロール等の活動に対する助成を行い、特にスクールサポート制度など、地域住民と学校、警察が連携して子どもの安全を地域全体で守る活動を促進します。
- ・夜間における犯罪の防止や市民の安全な通行を目的に、街路灯や防犯灯の設置を推進します。
- ・繁華街や地下道等における犯罪を未然に防止するため、防犯ビデオカメラシステムの管理、運用を行います。

4) バリアフリー

- ・全ての市民や来訪者が安心して快適に暮らし過ごせる都市づくりを目指し、ノーマライゼーションの理念に基づき、公共施設をはじめ、建築物、移動環境、情報等サービス環境など、総合的なバリアフリー環境の整備を図ります。

バリアフリー整備の啓発、指導

- ・不特定多数が利用する公益的施設について、チェックリストに基づくバリアフリー整備状況を記入し、バリアフリー整備の啓発を図ります。
- ・特にバリアフリー化が必要な施設については、建築確認申請前に届出義務を課すことでバリアフリーの指導を行います。

公共施設のバリアフリー化

- ・公共建築物や道路、公園、学校等について、バリアフリーの整備状況を把握するとともに、バリアフリー化を推進します。
- ・オストメイトの方が安心して外出できるためのトイレ整備を進めます。

公共交通のバリアフリー化

- ・ノンステップバスや車椅子対応車両の導入、鉄道駅やバス停のバリアフリー化を支援、推進し、誰もが移動しやすい環境を整備していきます。

公営住宅の改善、建て替えの推進

- ・建物の老朽化や施設の劣化した公営住宅については重点的に建て替えを進めています。
- ・施設の改修に際しては、住戸内の段差の解消や手すりの設置、通路幅の確保など、高齢者が安心して暮らせる住環境を整備します。

シルバーハウ징の推進

- ・高齢者世帯が自立して安全、快適な生活を営むことができるよう、市営住宅の建て替えに合わせてシルバーハウジングを供給していきます。

情報バリアフリー化の推進

- ・視覚に障害のある人のための音声誘導システムの整備や点字による広報、また、聴覚に障害のある人が情報を得るためのＴＶ電話や文字放送機器などの充実を図ります。

5) 地球環境保全

- ・地球温暖化等の環境問題の解消のため、金沢市の事業活動からの環境負荷の低減に努め、そのための最も効果的な対策であるエネルギー、資源の有効活用を図ります。
- ・温室効果ガスの削減を図るため、エネルギーの使用効率を高め、消費エネルギー量の削減に努めるなど省エネルギーの普及促進を図ります。
- ・公共交通の活性化と利用促進を図り、人と環境に優しい交通を実現することによって、二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- ・太陽光発電の導入など自然エネルギーの有効活用について研究し、積極的な導入を図ります。
- ・水道水の製造過程で発生する汚泥土や下水の処理工程から発生する消化ガス、焼却灰の有効利用を進めるなど、地球環境に配慮した事業を推進します。
- ・合流式下水道の改善により、雨天時に犀川や浅野川に放流される汚濁負荷量を低減し、水環境の保全に努めます。
- ・貴重な資源である地下水を適正に利用し、地盤沈下による住民の生活環境への影響を軽減するために、河川水や下水処理水を活用した消雪装置の設置や透水性舗装、雨水浸透マス等の整備を進めます。
- ・市民、事業者との協働を推進するために、環境に関する情報の提供を進めるとともに、環境教育、環境学習を推進します。

(3) 主な供給処理施設整備の方針（生活基盤づくり）

1) 上水道

- ・より多くの市民がいつでもどこでも安心して安全なおいしい水を利用できるように、水道普及地域の拡大を図ります。
- ・地震発生時の飲料水等を確保するため、配水場や基幹送配水管等の耐震補強を進め、安定供給を図ります。
- ・施設の老朽化に対応するため、更新等を合理的かつ効果的に進めます。

2) 下水道

- ・快適で清潔な市民生活を支えるために、公共下水道事業計画に基づき未整備区域の下水道整備を進めます。
- ・地震発生後の衛生面での安全確保に向け、下水処理場等の基幹施設や重要な管渠の耐震化を推進します。
- ・施設の老朽化に対応するため、延命化措置等を合理的かつ効果的に進めます。
- ・排除方式が合流式の区域では、水質汚濁防止の観点から分流式並みに施設改善を推進します。

3) ガス

- ・地震発生後の二次災害を防止するため、ガス製造設備等の基幹施設及び管路施設の耐震補強を推進します。
- ・低圧ガス導管（本支管）に対する経年管対策として、戦前から使用されてきたガス管や腐食が進行しやすいガス管の更新を着実に実施するとともに、使用者が所有するガス管の更新を併せて進めます。

4) ごみ処理施設

- ・市民の快適な生活環境を向上し、環境に配慮した処理環境を整えるため、クリーンセンターの改築、改良をはじめ、埋立場の延命化、次期最終処分場の確保など、適正なごみ処理と環境負荷を抑えた処理施設の確保を図ります。
- ・ごみ減量の啓発、指導をはじめ、民間リユースの拡大、リサイクルの促進、事業系事業系廃棄物の資源化の促進など、市民、事業者、行政の協働による循環型社会を推進します。

(4) 公共公益施設整備の方針（市民生活を支える施設づくり）

市民生活を支える公共公益施設については、都市及び地域の実情に応じて適切な配置を図ります。

1) 医療・高齢者福祉施設

- ・高齢者の増加や医療、福祉施設の需要動向を見極めながら、高齢者をはじめ市民一人ひとりが健やかに安心して暮らし続けられる環境整備を図ります。
- ・広域型福祉施設について、生活の場にふさわしい生活環境の改善、向上を図ります。
- ・住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域に密着した小規模多機能型居宅介護施設をはじめ、認知症の方を対象としたグループホーム等を日常生活圏域ごとに整備を促進します。
- ・特に、日常生活の利便性の高い中心市街地において、施設の積極的な配置を推進します。
- ・多様な医療、福祉サービスを提供するため、高度医療機関や民間医療機関間のネットワーク化、医療機関と老人福祉施設等との連携を推進します。

2) 学校施設

- ・地域の児童、生徒数の変化の状況や校舎の老朽化等に応じて学校施設の改築を進めます。
- ・学校施設は、児童、生徒が1日の大半を過ごす生活の場であると同時に、地域住民等の緊急避難場所の役割を果たすことから、学校建物の耐震性能を確保し、防災対策を促進します。

3) 生涯学習施設の整備、充実

- ・社会の変化に対応できる学習体制の拡充と、市民の多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、市民一人ひとりの生きがいある暮らしを実現するための支援を行います。
- ・地域活動の拠点として利用され、生涯学習の推進においても重要な役割を担っている地区公民館の整備や機能、学習内容の充実を図ります。
- ・金沢西部図書館（仮称）など市内における図書館の整備、機能拡充を図ります。
- ・生涯スポーツ社会の成熟に合わせて、すべての市民がいつでも、どこでも、いつまでも個人の関心や目的、体力に応じて運動やスポーツに親しめる社会の実現をめざし、施設や制度の整備、充実を図っていきます。

3 4 市民参加・協働のまちづくり方針

まちづくり、都市計画の究極の目標は、市民生活や都市活動が円滑かつ効率的に行えるよう、また、金沢で暮らし働くことが一人一人の誇りとなるよう、きちんとした方向性とルールにより都市全体の発展を促していくことといえます。そのためは、市民自らが金沢を愛し、高い公共意識を持ちかつ自発的な行動を行うことが不可欠となります。そこで、市民と行政が理解し合い、市民参加と協働で進めるまちづくりの実現を目指して、積極的な情報公開、各種制度の導入や支援制度の活用などの取り組みを行っていきます。

1) まちづくりルールの普及

- ・まちづくり条例の主旨に則り、市民参加の促進と市民、事業者、行政の協働のまちづくりを推進していきます。
- ・自らのまちを最も愛しよく知っているのは、そこに住む人々であることから、そのまちを守りよりよいまちづくりを進めるために、住民自らが造るまちづくりルールの普及を支援し促進します。
- ・地区計画やまちづくり協定により設定されたまちづくりルールの遵守と活用を住民とともに推進します。

2) コミュニティ活動の支援

- ・市民のまちづくり活動の基盤を充実させるため、町会組織の充実、独自まちづくり組織の設立、各種ボランティア組織などの体制づくり及び担い手やリーダーの育成を積極的に支援していきます。特に、マンションに関しては、集合住宅コミュニティ条例の主旨に則り、良好なコミュニティ基盤の形成を推進します。
- ・コミュニティ空間条例に則り、市民とともに広見をはじめとする地域コミュニティ空間を次世代に継承し、よりよいコミュニティの活性化するために必要な整備や支援を行います。
- ・地域における住民相互の連帯意識の醸成及び住民によるまちづくりの活性化を図るため、旧町名の復活を推進します。
- ・地域に伝わる祭りや行事などの活動等を通じて、弱体化しつつある地域コミュニティの再生、活性化を図ります。

3) その他市民活動の支援

- ・まちづくりに大学の智恵とエネルギーを注入するために、様々なジャンルにおける大学との連携を深めていきます。
- ・特にまちに活力と斬新な発想を与えるために、学生のまちづくりへの参加を積極的に促進します。
- ・より広い市民の意見をまちづくり反映させ、またまちづくりのリーダーを育てていくために、金沢まちづくり市民研究機構をはじめとする市民との協働を促進します。
- ・ボランティア活動はまちづくりの重要な活力源であり、市民主体のまちづくりを実現する鍵を握っていることから、ボランティア大学の支援や各種NPOの設立支援をはじめとする各種取り組みを推進していきます。
- ・まちづくりは人づくりであるとの考え方方に立ち、職人大学や卯辰山工芸工房をはじめとする、専門的な人づくりについても積極的に推進していきます。

4) 市民とともに歩むために

- ・金沢市協働推進条例の主旨に則り、町内会等のコミュニティ活動団体や、ボランティア、NPO等の各種市民団体等で組織する「協働をすすめる市民会議」を中心に、自主的かつ積極的な市民参加と協働によるまちづくりを推進します。
- ・個人情報保護を図りつつ、様々な行政情報や協働に関する企画、立案、実施に関する情報の提供を推進するとともに行政評価システムの充実を図ります。
 - ・パブリックコメント制度の活用、充実を図ります。
 - ・審議会への公募委員の充実を図ります。
 - ・ホームページの活用により、見やすい、調べやすい、分かりやすい情報提供を推進します。
 - ・市民が積極的に市政に参加するために必要な情報公開に努めます。

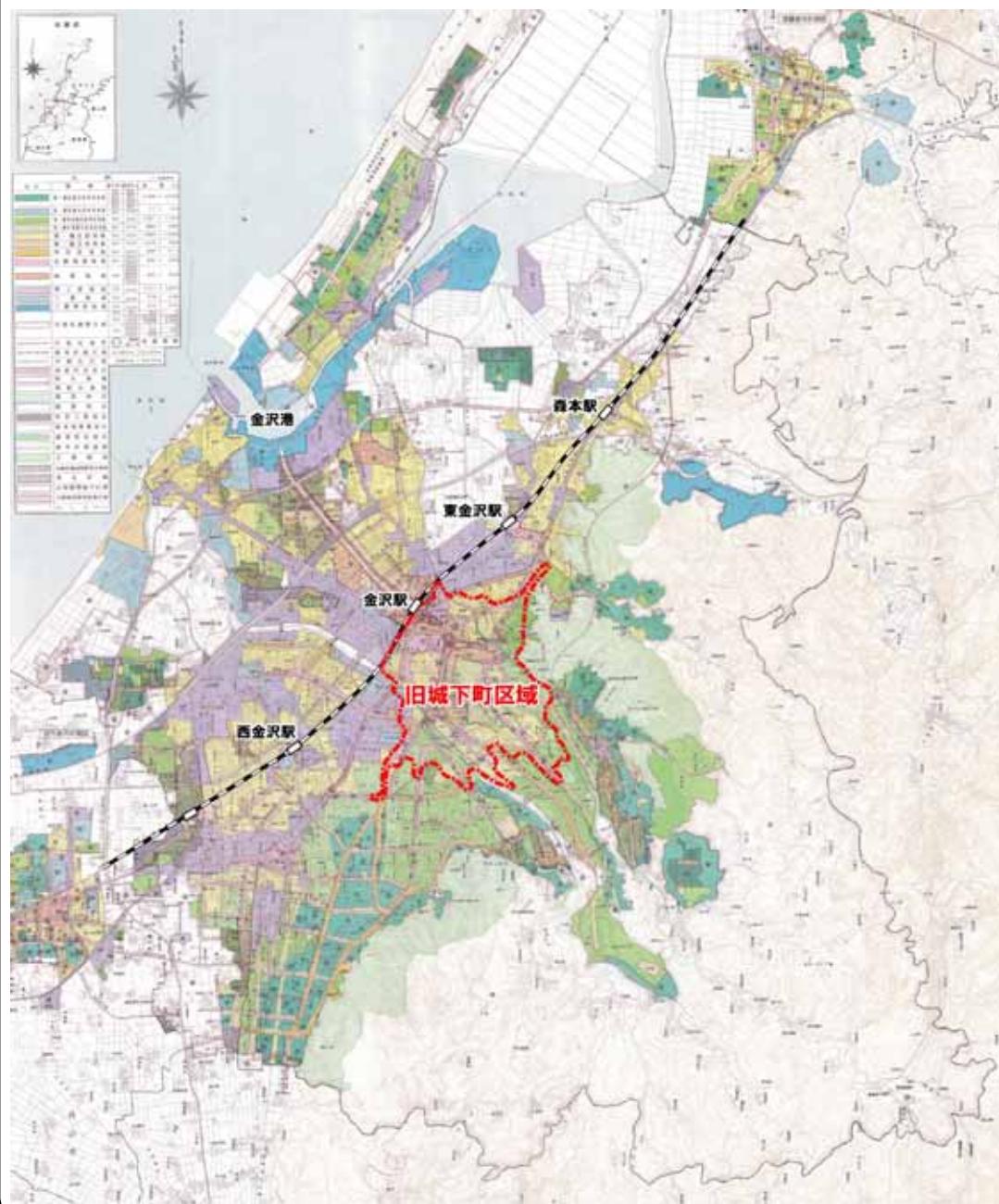
第4章 重点地区(旧城下町区域)のまちづくり方針

4 1 重点地区の設定

藩政期からの都市構造を今に残す金沢の旧城下町区域は、「金沢らしさ」を最も強く表現するとともに、商業、業務機能の中心的役割を果たす重要な地区です。

当該地区の整備のあり方は、将来の金沢市の存立に大きく関わるとともに、周辺市街地整備にも大きな影響を与えることから、重点地区として捉まえてまちづくりのテーマを設定し、そのテーマ実現のための各種方針を示します。

重点地区(旧城下町区域)の概ねの範囲

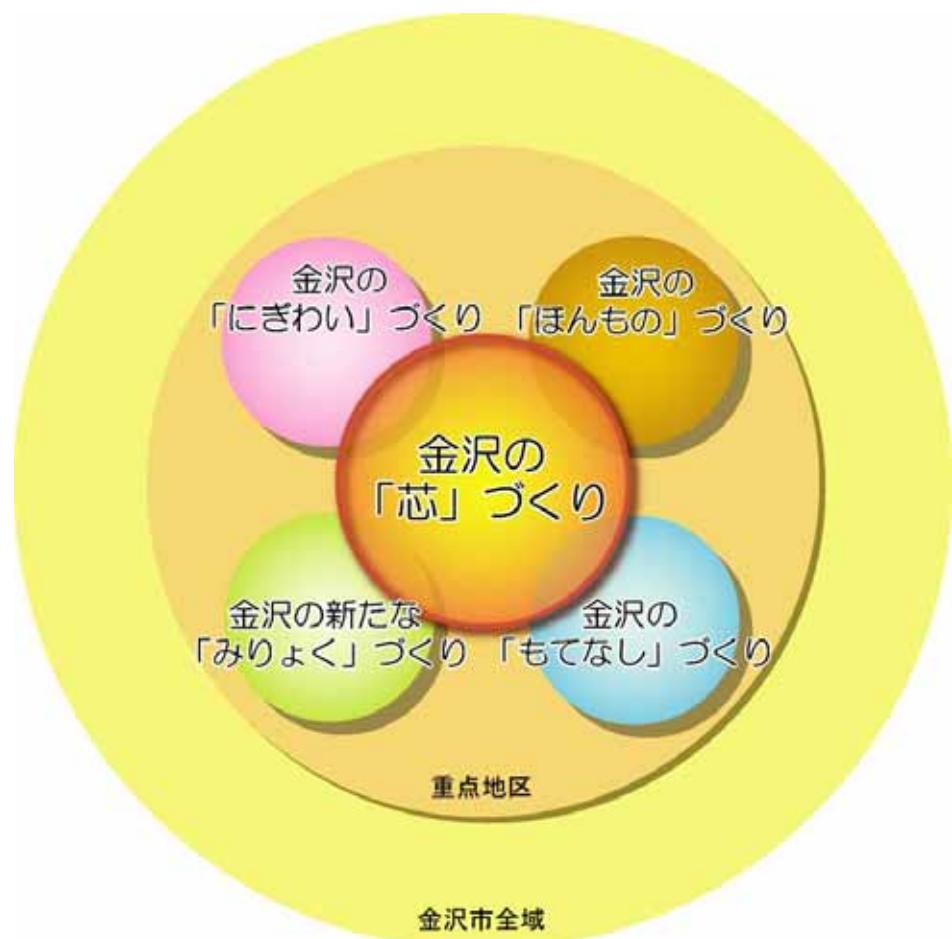


4 2 重点地区のまちづくりのテーマ

城下町「金沢」の伝統文化を背景として、集積する都市機能や施設及び歴史的かつ文化的な資源等を守り活かしながら、金沢の都市づくりを牽引する「芯」として、多様な人々が安全に住まい、営みと交流による「にぎわい」、生活に根付いた世界に誇る金沢の「ほんもの」、伝統と近代が調和、融合した新しい「みりょく」、多くの来訪者を暖かく迎える「もてなし」を創造し、金沢らしい成熟したまちを目指し、重点地区のまちづくりのテーマを次のように設定します。

旧城下町区域を金沢の都市づくりを牽引する「芯」として位置づけ、「にぎわい」、「ほんもの」、「みりょく」、「もてなし」を創造する。

重点地区のまちづくりテーマイメージ



4 3 重点地区のまちづくり方針

~ 都市づくりを牽引する金沢の「芯」づくりの基本方針 ~

都市づくりの中心的役割を担う総合的な施策の展開

- ・金沢の「芯」として重要な役割を担う重点地区では、伝統環境と近代的環境のバランスがとれ、美しく風格のある成熟したまちなかの形成を目指します。
- ・コンパクトな都市づくりを推進するため、商業、業務機能の強化とあわせて、まちなか居住のさらなる促進を図ります。
- ・伝統環境と近代的環境の調和、さらには歴史性、文化性も加味しながら、各種のまちづくり施策を総合的な観点で推進します。
- ・既存の各種制度の活用や金沢独自の制度などを創設し、市民、事業者及び行政の協働のもと、きめこまやかなまちづくりを推進することによって、地区の特性に応じた金沢らしい魅力ある都市空間の再整備を図ります。



【公募型金沢市ゆめまちづくり活動支援事業】

拠点的都市基盤・施設及び市街地の整備

- ・北陸新幹線の金沢開業を見据え、金沢駅のさらなる機能充実を図り、その拠点性を活かした公共交通基盤や道路等の整備、機能強化を図ります。
- ・兼六園を含む兼六園周辺文化の森の整備促進等により、美しく、うるおいあるまちなかの都市基盤整備を図ります。



【金沢駅 もてなしドーム】

公共公益施設の充実とコミュニティの活性化によるハイアメニティのまちなか居住の推進

- ・まちなかに集積する公共公益施設等の既存ストックを有効に活用しながら、快適なまちなか居住のさらなる向上を目指し、各種機能の充実を図ります。
- ・長い歴史を持つ、町内活動や消防団活動、善隣館活動等のコミュニティの活性化を図り、アメニティあふれるまちなか居住を促進します。



【金沢市街】

(1) 多様な人が住まい、営み、交流する金沢の「にぎわい」づくり

金沢の「芯」となる旧城下町の魅力を磨き、後世に引き継いでいくために、人々の暮らし、経済活動、交流の場の形成による「にぎわい」を創出します。

にぎわいを創出する安全で安心なまちなか居住の推進

- ・まちなかの駐車場の適正配置とともに、未利用地の宅地化施策を検討し、建物利用を主体としたまちなからしい土地利用の実現を目指します。
- ・まちなか定住促進事業等の活用やかなざわ定住促進ネットワーク等との連携により、金沢モデルによるまちなか定住を促進します。
- ・各種支援制度を活用し、まちなか居住を支える生活関連サービスの提供、充実に努めます。
- ・重点地区に数多く残る町家を継承、活用し、定住促進やにぎわい創出に向けた施策を推進します。
- ・密集市街地においては、地区の特性に応じた各種制度を活用し、災害に強い安全、安心な住宅地の整備に努めます。
- ・街灯の設置等による居住環境改善や地域コミュニティの活性化を図ることで、犯罪を未然に防ぎ、安心して生活できるまちづくりを推進します。



【まちなか住宅団地整備費補助制度（長町地内）】

商業、業務の機能強化によるまちなかの活性化

- ・金沢駅～武蔵が辻～香林坊～片町に至る都心軸 及び広坂通りについては、TMOとの連携や地区計画、まちづくり協定等の活用により、活気がある都心軸にふさわしい沿道環境の創出を図るとともに、商業、業務機能の求心力を高め、活力ある商業空間や都心ビジネスの形成を図ります。
- ・ストリートファニチュアの充実や彫刻等を配置したアートアベニューの展開など、歩いて楽しめるユニバーサルデザインを取り入れた歩行空間を創出します。
- ・地域に根ざした商業地については、各種支援制度の活用やTMOとの協働によって活性化を目指します。



【片町・香林坊】

多様な交流による地域や人とのつながりの育成・強化

- ・金沢城公園周辺や茶屋街、寺町等の歴史的地区、新たな文化拠点である金沢21世紀美術館、ショッピング拠点としての香林坊地区など、各種観光拠点を結ぶ歩行者ネットワークの整備に努めます。
- ・まちなかの公園、広場において多彩なイベント等を催し、来訪者と地域の人々のつながりを図ります。

(2) 生活に根付いた金沢の「ほんもの」づくり

金沢の「芯」となる旧城下町の魅力は、人々の生活に根付いた固有の伝統文化であり、歴史的遺産や文化的景観などの「ほんもの」を大切にします。

金沢固有の伝統文化に育まれた歴史遺産、文化的景観の保存

- 茶屋街や寺院群においては**伝統的建造物群保存地区の指定を目指す**とともに、景観条例や、こまちなみ保存条例及び寺社風景保全条例を活用し、町家や寺社等の**歴史的建造物や庭園**及びその周辺市街地の都市環境の保全を図ります。
- 旧城下町を流れる辰巳用水や内外惣構堀等については、その歴史的価値を検証して、**一部史跡指定を目指す**とともに、開渠化等による復元、親水空間としての整備を推進します。
- 歴史遺産については、調査、研究による価値付けと文化財指定等により、確実に保護するとともに、周辺環境との一体的整備を図ります。
- 旧城下町としての都市基盤、長年蓄積された伝統文化及び藩政期から継承されている**市民の暮らしに培われた金沢固有の文化的景観の保存**を図ります。
- 藩政期の面影を今日に残す細街路については、地域住民の生活環境に配慮しつつ、その魅力を残しながら維持、改善を図ります。
- 城下町金沢**の歴史的遺産群と文化的景観が、金沢が誇る世界的資産であることを学校教育や**生涯学習の場**を通じ、市民に対して啓発に努めます。



【ひがし茶屋街】

重要伝統的建造物群保存地区
指定済



【西外惣構掘跡】

金沢ブランドの世界への発信

- 兼六園、金沢城公園周辺は、まちなかの貴重な公共空間であるとともに、最も重要な歴史的空間であり、歴史、伝統、文化が息づく世界に誇る金沢の顔として、世界に向けてその魅力の発信に努めます。
- 金沢が保持し続けた近世城下町の特徴である、用水、惣構堀、茶屋街、寺院群等の歴史遺産群も併せて広く世界に発信していきます。
- 重点地区では、藩政期からの由来のある旧町名の復活を歴史に責任を持つ都市「金沢」として積極的に推進します。



【兼六園】



【旧町名の復活(H19.3.1 復活)】

(3) 古いものと新しいものとが調和する金沢の新たな「みりょく」づくり
金沢の「芯」となる旧城下町が輝き続けるために、伝統環境保存と近代的環境創出を調和させながら、金沢の新たな「みりょく」を高めていきます。

伝統環境の保存・再生と近代的都市環境の創出

- 重点地区内には、旧城下町の歴史や伝統を色濃く残した伝統環境が多く残されており、これらを適切に後世に引き継ぐため、歴史的検証に基づいた保存、再生を図ります。
- 歴史的価値のみだけでなく、文化的側面からもまちなかの歴史的風致の維持及び向上を図り、金沢らしい景観づくりに努めます。
- 都心軸沿道や幹線道路沿道においては、地区計画やまちづくり協定等の活用により、日本海側の中核基幹都市にふさわしい近代的都市環境を創出します。



【金沢城公園】



【広坂通り】

伝統環境と近代的環境が調和した輝く個性の創出

- 重点地区は、伝統環境と近代的環境が共存していることが大きな特徴になっています。今後、その中間領域の景観のあり方を検討するとともに、景観区域を重点地区全域に拡大し、魅力あるまちなかの景観の創出を図ります。
- さらなるまちなかの景観創出に向けて、優れたデザインの建造物等について、省エネルギーに配慮しながらライトアップするなど、金沢にふさわしい夜間景観の創出を促進します。
- 電柱、電線類については、地中化や軒下配線などによって計画的に無電柱化事業を推進し、美しく安全なまちづくりに努めます。
- 道路標識については、安全かつ円滑な交通を確保することを前提に、表示機能には影響を及ぼさない範囲において、寸法や文字の大きさ等を周辺環境に調和して柔軟に運用することにより、魅力ある都市景観を保全します。



【香林坊地区における伝統と近代の融合】

(4) やさしさと親しみに満ちた金沢の「もてなし」づくり

金沢の「芯」となる旧城下町を舞台とした交流拡大を図るために、住む人、訪れる人双方にやさしさと親しみに満ちた「もてなし」を提供します。

利便性に富み、誰もが快適に暮らせる生活基盤の整備充実

- ・都心軸は市内の公共交通路線網の最重要区間であり、新幹線開業に対応するためにも、まちなかシャトルバスの導入をはじめとしたさらなる利便性の向上を図ります。
- ・まちなかの身近な足として、ふらっとバスの利用を促進します。
- ・今後の高齢社会を見据え、駅、バス停、歩道等の交通施設はもとより、不特定多数の人々が利用する建築物等についても、バリアフリー化を図ります。



【ふらっとバスの利活用】

魅力あふれる持続可能な都市環境の創出

- ・公共交通の利用促進を図るとともに、魅力ある歩道の整備、歩けるネットワークづくりや、歩行者専用道路の拡充等、歩けるまちづくりを推進します。
- ・自転車の走行環境の改善を図るとともに、自転車走行ルールや自転車駐輪マナーの周知徹底を図ります。
- ・斜面緑地の保全、民有地や駐車場、商業施設の屋上等の緑化、緑地の整備推進等により、緑豊かな環境の再生、創出を図ります。
- ・兼六園、金沢城公園周辺や河岸段丘と河川、用水等による緑と水のネットワークを構築し、魅力ある都市環境の創出を図ります。



【緑と水のネットワーク】

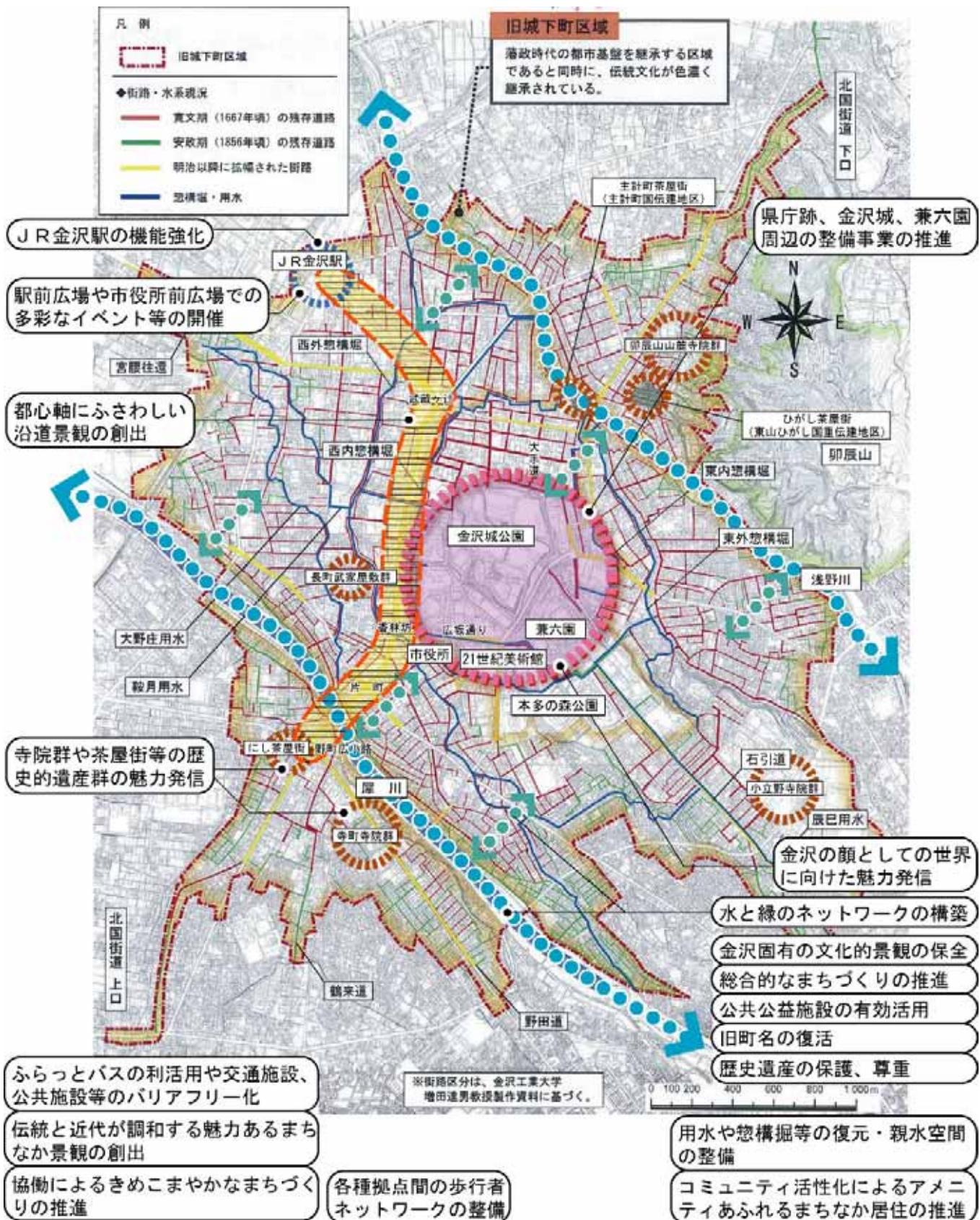
もてなしの力で育む交流の拡大

- ・金沢で「ほんもの」の伝統文化を体験できるように、重点地区に多く存在する各種観光資源の保存、継承を図るとともに、観光ボランティアガイドなどの人材を育成し、来訪者に対して、金沢独特のやさしいもてなしの心で、多彩な交流の拡大を図ります。
- ・主要な拠点に外国語併記の案内誘導サインや案内所を適切に設置します。



【通訳ボランティアガイド(KGGN)】

重点地区のまちづくり方針図

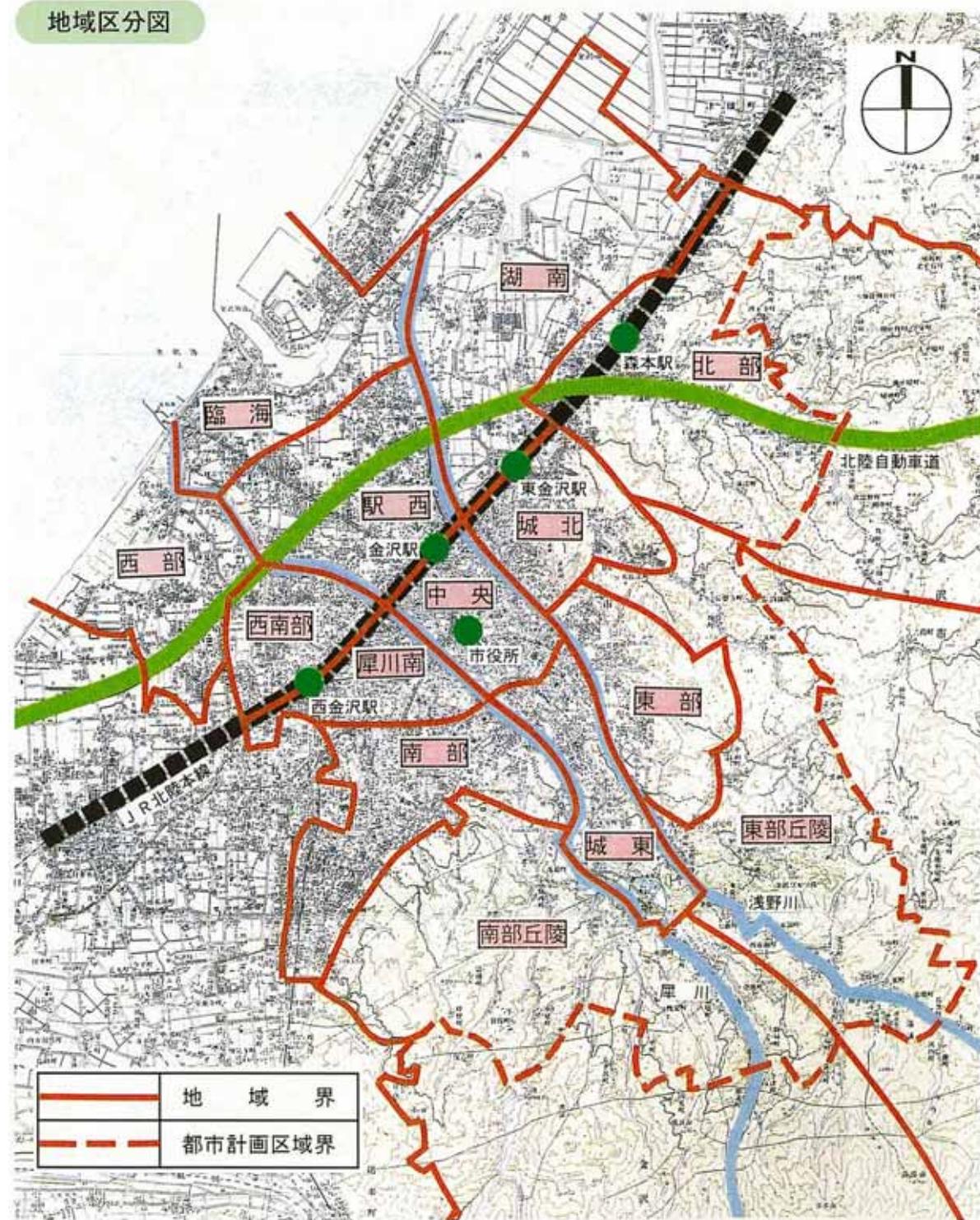


第5章 地域別のまちづくり方針

5 1 地域区分

地域のまとまり（領域感）や市街地の形状等を考慮し、河川、鉄道、道路等の地形、地物を主に用いて、下記の14地域に区分します。

地域区分図



5 2 地域別のまちづくり方針

1. 中央地域

(1) まちづくりのテーマ

『歴史的文化と近代的文化が調和した

活力ある城下町金沢の都心』

都心部に重層的に集積している近世、近代の多くの歴史文化遺産群を保全しつつ、さらに磨きをかけ都心部の魅力向上を推進します。

また、保全と開発の調和に配慮しつつ、北陸新幹線の金沢開業を控え、北陸の玄関口にふさわしい都心機能の強化や近代的なまちなみ形成を図ります。

さらに、中心市街地の商業機能の活性化や公共交通と歩行者を主体とした交通体系の推進、まちなか定住促進など、都心部の求心力の向上を重要課題としてまちづくりを目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

城下町金沢の近世、近代の文化遺産群の保全整備を行います。

まちなか居住の推進や商業、業務機能の充実を図ることにより、住、遊、職のバランスがとれた、にぎわいのある中心市街地の再生を図ります。

公共交通、歩行者優先のまちづくりや防災基盤の整備等により、利便性に富み、安全、安心して暮らせる快適なまちなか居住環境の創出を図ります。

用水と緑に彩られたうるおいのある都心空間の形成を図ります。

1) 土地利用の方針

- ・伝統的なまちなみの保存と、近代的なまちなみの形成によるバランスのとれた土地利用を推進し、金沢らしい歴史や文化を感じさせる都市空間の創出を図ります。
- ・**いたずらな駐車場化の抑制や空き家、空き地等の低未利用地の流通促進**による有効利用や、共同化による土地の適正な利用を図ります。
- ・**旧来からの低層住宅を中心とした住宅地**については、**居住再生地区としてこの趣を残しつつ、防災、住環境面の向上を図るための再生**を進めます。
- ・密集市街地の居住環境改善や伝統的環境に配慮した住宅の供給等に併せ、各世代のバランスのとれたまちなか定住を促進する土地利用を図ります。
- ・高齢者等が暮らしやすい環境を創出するため、各種サービス施設の適切な立地に向けた土地利用の誘導を図ります。

- ・金沢城、兼六園周辺については、歴史文化シンボル地区として、今後とも世界に誇れる金沢の顔となるよう、保存や活用を図ります。
- ・金沢駅から香林坊、片町に至る都心軸の沿道地域においては、商業、業務機能を集積するとともに、まちなか居住との複合的な高度利用を図ります。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・歴史、文化資源の保全に配慮しつつ、商業、業務機能の充実や公共交通機能の充実、快適な歩行環境の創出等により、多くの人々が賑わう魅力あるまちなかの形成を図ります。
- ・町家の継承、活用や空き地、未利用地の適正な活用を誘導する施策を検討し、歴史的建造物と調和したまちなかの形成を図ります。
- ・各地区の特性に応じた居住環境並びに防災機能の向上を図るため、各種制度を活用し、住民と行政の協働のもと、金沢独自のきめ細かなまちづくりを推進します。
- ・身近な地域商業地の活性化を図り、誰もが暮らしやすい市街地としての機能を充実します。
- ・金沢城及び兼六園周辺、犀川、浅野川の河川敷空間については、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。



【賑わいのある商店街】

交通施設等整備の方針

- ・北陸新幹線の金沢駅までの開業を見据え、金沢駅及び駅前広場の利便性向上を推進します。
- ・中心市街地活性化のためにも、公共交通重要路線を中心にバスや鉄道の利便性向上を図るとともに、将来的にトランジットモールの導入について検討します。
- ・ふらっとバスや路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討するとともに、バス待ち環境（バス停、バス待ちスペース等）の整備等を図り、利用活性化を推進します。
- ・効率的な商業、業務活動の支援や買い物環境の向上を図るため、公共交通利用と自動車利用とのバランスに配慮して駐車場の適正配置を推進します。
- ・歩行者や自転車が快適にまちなかを回遊できるよう、歩道等の道路整備をはじめ、まちかどベンチやまちなかトイレ、観光案内板を整備し、まちなか歩行回廊の形成を図ります。



【新幹線開業を控えた金沢駅】

公園緑地整備の方針

- ・金沢城公園、兼六園、周辺部の都市公園や緑地については、緑の保全活用を図りながら、地域の歴史、文化の魅力向上を目的とする整備を進めていきます。
- ・寺社や民地に残されている巨樹、樹林の保存を図り、まちなかの緑の保全に努めています。
- ・未利用地を活用した緑地等の整備をはじめ民有地の緑化や商業、業務施設の屋上緑化、町名ゆかりのシンボル樹の植栽等、まちなかの緑の増大を図ります。



【特別名勝兼六園】

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・金沢城跡（国指定史跡）や兼六園（特別名勝）、惣構堀等の城下町金沢の歴史遺産群の保全、復元を積極的に推進します。
- ・金沢城や長町武家屋敷群、主計町、こまちなみ区域等の歴史的、文化的景観を保護、保全するとともに、その周辺の景観についても各種条例により、保全、創出を図ります。
- ・都心軸及び広坂通りについては、地区計画やまちづくり協定等を活用したきめ細かな近代的都市景観の創出を図ります。
- ・特に、兼六園や金沢城公園周辺では、歴史的風致の維持、向上や魅力的なまちなみの形成に向けて、無電柱化を推進します。
- ・中心市街地を流れる用水の水質維持や流量確保に努めるとともに、辰巳用水の開渠化や大野庄用水等の修景により、うるおい豊かな都心環境の形成を推進します。
- ・ホタル等の生き物の生息環境を保護するためにも、都心部の貴重な自然環境の保全を推進します。



【中心市街地を流れる用水】

安全・安心な地域づくりの方針

- ・木造住宅密集地など、防災上危険な地区においては、住民と行政の協働のもと、各種制度を活用した基盤整備や住宅の不燃化、耐震化を図ります。
- ・伝統的なまちなみを保全するため、歴史的建築物の耐震診断、耐震化を図ります。

- ・地域住民が確実に安全に避難できるよう、避難場所の整備、確保を図るとともに、高齢者や障害者等の利用に配慮し、バリアフリー化等に対応した避難場所の確保を図ります。
- ・水害に強いまちづくりのため、犀川、浅野川等の河川や内水を適切に管理し、必要な整備を図ります。

2. 城東地域

(1) まちづくりのテーマ

『 小立野台地と河岸段丘の起伏ある地形を活かした
個性的な住宅地 』

犀川、浅野川の河岸段丘の縁量感ある斜面緑地の保全や寺院群や辰巳用水、坂道、広見など、城下町特有の都市構造を保全し、豊かな水や緑、歴史性に彩られた落ち着きのある住宅地の形成を図ります。

また、幹線道路沿道の商店街の活性化を図るとともに、その背後地においては、清閑で利便性に富んだ居住環境の保全、創出を目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

地域を縁どる斜面緑地や歴史文化遺産群の保全、活用を図ります。
工学部跡地の適正な利用と兼六園、金沢大学医学部附属病院、石引商店街、小立野商店街を結ぶ歩行者ネットワークの充実を図ります。
近隣商店街の活性化により、利便性に富んだ住みよいまちづくりを図ります。

1) 土地利用の方針

- ・金沢大学工学部の跡地など、未利用地の計画的かつ有効的な利用を検討します。
- ・良好な居住環境の保全を図るとともに、空き家や空き地の適切な活用を誘導し、秩序ある住宅地の土地利用を図ります。
- ・近隣商店街の活性化や高齢者の生活を支える機能の充実等により、住みよい都市環境形成を図ります。
- ・犀川及び浅野川河岸段丘の斜面緑地の保全と小立野寺院群の保全を図ります。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・良好な居住環境の保全、創出を図るため、地域住民との協働による地区計画やまちづくり協定の活用を図ります。
- ・石引商店街や小立野商店街を基盤に、周辺地域の日常的な買い物をまかなく商業機能の充実を図ります。



【小立野通り】

- ・斜面緑地について、特別緑地保全地区等の拡大を図ります。
- ・小立野寺院群について、伝統的建造物保全地区の指定を検討します。
- ・小立野台の斜面緑地や犀川、浅野川の河川敷空間については、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。

交通施設等整備の方針

- ・都心部へのアクセスにあたっては、公共交通利用が基本となることを目指し、公共交通重要路線を中心にバスレーン、パーク＆ライドシステム、公共交通優先システム（PTPS）の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ・ふらっとバスや路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討するとともに、バス待ち環境（バス停、バス待ちスペース等）の整備等を図り、利用活性化を推進します。
- ・小立野寺院群の界隈において、各寺院をネットワークする、歩けるみち筋の整備に努めます。

公園緑地整備の方針

- ・小立野寺院群の境内地の叢林の保全や、身近な憩いの場として境内地の緑地や空間の活用を検討します。
- ・河岸段丘の斜面緑地の保全と河川、用水沿いの緑、寺社の叢林等をつなぐ緑のネットワークの形成を図ります。



【河岸段丘の斜面緑地】

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・犀川右岸及び浅野川左岸の河岸段丘斜面緑地について、特別緑地保全地区等の拡大を図ります。
- ・犀川、浅野川をはじめ、辰巳用水、旭用水等のうるおいのある水辺環境の保全、創出を図ります。
- ・辰巳用水を史跡指定し、積極的な保全を推進します。
- ・小立野寺院群や土清水塩硝蔵跡、鶴間坂や亀坂、天徳院前の広見など、城下町の面影を残す歴史的文化遺産群の積極的な保全、復元を推進します。
- ・天徳院等の寺社建築や地域内に点在する歴史的遺構の保存に努め、地域の歴史を伝える景観の保全、形成を図ります。



【水辺環境の保全】



【城下町の面影を残す天徳院】

安全・安心な**地域**づくりの方針

- ・木造住宅密集地など、防災上危険な地域において、各種制度を活用した基盤整備の推進や住宅の不燃化、耐震化を図ります。
- ・地域住民が確実に安全に避難できるよう、避難場所の整備、確保を図るとともに、高齢者や障害者等の利用に配慮し、バリアフリー化等に対応した避難場所の確保に努めます。
- ・浅野川左岸や犀川右岸の崖地において土砂災害**防止対策**を推進します。

3. 犀川南地域

(1) まちづくりのテーマ

『寺町台に広がる伝統的まちなみと公共交通体系を 活かしたまち』

寺町寺院群やにし茶屋街、城下町の面影を残す遺産群の保全や、犀川の豊かな流れ、寺町段丘台地の斜面緑地の保全、活用により、伝統とうるおいに満ちた地域環境の形成を図ります。

また、交通結節点となるJR西金沢駅及び北陸鉄道野町駅の機能強化と公共交通との接続性向上を図るとともに、住宅地において、居住環境の向上を目指した基盤整備を推進し、安心して快適に暮らせるまちづくりを目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

寺町寺院群やにし茶屋街、こまちなみ、坂道、用水、広見等の歴史文化遺産群を保全します。

JR西金沢駅及び北陸鉄道野町駅の交通結節機能の強化と公共交通との接続性向上を図ります。

伏見川、高橋川等の水辺環境を活かした都市環境の向上を図ります。

住宅地における居住環境並びに防災基盤整備を図ります。

1) 土地利用の方針

- 寺町寺院群、にし茶屋街等の歴史的環境の保全を図るとともに、その周辺については、歴史、文化的環境に配慮した土地利用を図ります。
- 住工混在地区においては、秩序ある土地利用へ誘導を図ります。
- 均整のとれた高さの建築物が連なるまちなみ形成を誘導する土地利用を推進します。
- JR西金沢駅の交通結節点としての機能強化により、公共交通の活性化を誘導する土地利用を図ります。



【歴史文化遺産 にし茶屋街】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- 住宅、商業施設、工場等の用途の混在を整序するため、用途地域の見直しや地区計画、まちづくり協定の導入等により、秩序ある市街地の形成を図ります。

- ・高度地区の指定を推進し、あわせて地区計画、まちづくり協定の活用により、建物の高さが揃った美しいまちなみの形成を図ります。
- ・JR西金沢駅周辺において、その拠点性、利便性を活かした土地利用への転換を検討します。
- ・犀川の河川敷空間については、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。

交通施設等整備の方針

- ・JR西金沢駅において、東西を結ぶ自由通路や西口駅前広場整備、広場へのアクセス道路の整備を総合的に推進し、交通結節点としての機能強化を図ります。
- ・北陸鉄道野町駅において、バスとの乗り継ぎ連携をはじめとする利便性向上を図り、利用促進を図ります。
- ・都心部へのアクセスにあたっては、公共交通利用が基本となることを目指し、パーク＆ライド駐車場の確保等による電車とバスの乗り換え利便性の向上や、公共交通重要路線を中心にバスレーン、公共交通優先システム（PTPS）の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ・ふらっとバスや路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討するとともに、バス待ち環境（バス停、バス待ちスペース等）の整備等を図り、利用活性化を推進します。
- ・泉野々市線等の整備より、中環状道路とのネットワークの形成を図ります。
- ・寺町寺院群の界隈において、歩行回遊のネットワーク道路の整備を図ります。



【現在のJR西金沢駅】

公園緑地整備の方針

- ・寺町寺院群の境内林や用水の緑等の歴史的由来を持つ緑を保全するとともに、これらと斜面緑地、河川緑地等をつなぐ緑のネットワークの形成を図ります。
- ・工場の敷地内緑化や商業、業務施設の屋上緑化、住宅の民有地緑化により、地域内の緑の増大を図ります。



【寺町寺院群】

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・犀川をはじめ、伏見川、高橋川、中村高畠用水、泉用水等のうるおいのある水辺環境の保全、創出を図ります。
- ・寺町段丘台地に広がる斜面緑地について、特別緑地保全地区等の拡大を検討するとともに、犀川沿いの河川緑地の保全を図ります。
- ・寺町寺院群、にし茶屋街及びその周辺においては、各種条例を活用して伝統的まちなみと調和したまちづくりを図ります。
- ・世界遺産登録を目指し、寺町寺院群について伝統的建造物群保存地区の指定を検討するとともに、松月寺の大桜やにし茶屋街、旧蛤坂、泉寺町のこまちなみ区域、旧北国街道並びに旧鶴来街道沿いのまちなみ、蛤坂、W坂等の坂道、泉用水など、城下町の面影を残す遺産群の積極的な保全を図ります。
- ・歴史的風致の維持、向上や魅力的なまちなみの形成に向けて、無電柱化を推進します。
- ・西インター大通りにおいて、本市の玄関口にふさわしい質の高い沿道景観の形成を図ります。

安全・安心な地域づくりの方針

- ・木造住宅密集地など、防災上危険な地域において、各種制度を活用した基盤整備の推進や住宅の不燃化、耐震化を図ります。
- ・寺町寺院群をはじめ歴史的建築物や文化財等の耐震診断、耐震化を図ります。
- ・犀川河岸段丘の土砂災害危険箇所において、土砂災害防止対策を推進します。



【地域にうるおいを与える犀川】

4 . 城北地域

(1) まちづくりのテーマ

『 卯辰山山麓に抱かれた伝統的まちなみと 近代的まちなみが調和するまち 』

卯辰山のふもとに広がるひがし茶屋街や卯辰山山麓寺院群、浅野川の流れなど、金沢らしい情緒あるまちなみや景観の保全を図ります。

また、交通結節点であるJR東金沢駅周辺の基盤整備を進め、地域の玄関口としての機能強化と賑わい創出を図るほか、住宅地において、昔ながらのまちなみや住宅地の景観保全に配慮しつつ、居住環境や防災基盤の整備充実により、安全で安心して暮らせる環境づくりを目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

ひがし茶屋街や卯辰山山麓寺院群等の歴史文化遺産の保全と卯辰山、浅野川のうるおいのある環境の保全を図ります。

JR東金沢駅の交通結節点としての機能強化と、公共交通との接続性の向上を図ります。

密集市街地においては、昔ながらのまちなみの保全に配慮しつつ、安全で快適な住宅地環境の形成を図ります。

1) 土地利用の方針

- ・卯辰山や浅野川を背景としたひがし茶屋街や卯辰山山麓寺院群等の歴史文化遺産の保全を図るとともに、主要幹線道路沿道や新市街地において、歴史、文化的環境と近代的環境が調和した土地利用を図ります。
- ・住宅地においては、緑豊かな自然環境を背景



【歴史文化遺産 ひがし茶屋街】

に、防災性や居住環境の向上を図ります。

- ・住工の用途混在地区では、秩序ある土地利用の誘導を図ります。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・周辺の自然環境や歴史的資産を活かした住宅地の防災性及び居住環境の向上を住民と行政の協働により図ります。

- 用途の混在を整序し、住宅地環境の向上を図るため、用途地域の見直しや地区計画、まちづくり協定の活用を図り、良好な市街地形成を図ります。
- JR東金沢駅周辺において、その拠点性及び利便性を活かした土地利用の誘導を図ります。
- 卯辰山丘陵及び東部丘陵は引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。

交通施設等整備の方針

- JR東金沢駅において、バス及びタクシー乗降場、駐輪場、送迎用駐車場の整備を図ります。
- 地域内の円滑な交通流動を確立するため、観光客用の駐車場整備や通行車両の走行速度の抑制など、地域にふさわしいハード、ソフトの交通基盤整備を図ります。
- 都心部へのアクセスにあたっては、公共交通利用が基本となることを目指し、パーク＆ライド駐車場の確保等による電車とバスの乗り換え利便性の向上や、公共交通重要路線を中心にバスレーン、公共交通優先システム（PTPS）の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ふらっとバスや路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討するとともに、バス待ち環境（バス停、バス待ちスペース等）の整備等を図り、利用活性化を推進します。
- ひがし茶屋街及び卯辰山山麓寺院群周辺において、舗装改良やまちかどベンチの設置、観光案内板等を整備し、歩行回廊の形成に努めます。



【現在のJR東金沢駅】

公園緑地整備の方針

- 卯辰山公園の再整備により、回遊性や眺望の向上を推進します。
- 東部丘陵地や卯辰山山麓寺院群の境内地の叢林等の保全を図ります。
- 市街地の借景となる卯辰山丘陵の斜面緑地について、風致地区として引き続き良好な自然環境を保全に取り組みます。

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- 世界遺産登録を目指し、東山ひがし重要伝統的建造物群保存地区の保全に引き続き取り組むとともに、卯辰山山麓寺院群の伝統的建造物群保存地区の指定を目指します。



【卯辰山山麓寺院群のまちなみ】

- ・旧観音町、**旧御歩町**のこまちなみ区域をはじめ、観音坂、子来坂の坂道や旧北国街道のまちなみ、地区内に多く点在する金澤町家など、城下町の面影を残す歴史的文化遺産群の積極的な保全、創出を図ります。
- ・歴史的風致の維持、向上や魅力的なまちなみの形成に向けて、無電柱化を推進します。
- ・東の玄関口となる東インター大通りの良好な沿道景観形成を図ります。
- ・浅野川、小坂用水、小橋用水等のうるおいのある水辺環境の創出を図ります。



【地域にうるおいを与える浅野川】

安全・安心な**地域づくり**の方針

- ・木造住宅密集地など、防災上危険な地区においては、住民と行政の協働のもと、各種制度を活用した基盤整備や住宅の不燃化、耐震化を図ります。
- ・卯辰山寺院群をはじめ歴史的建築物や文化財等の災害による喪失を防止するため、耐震診断、耐震化を図ります。
- ・卯辰山丘陵の**土砂災害危険箇所**において、土砂災害**防止対策**を推進します。
- ・水害に強いまちづくりのため、浅野川等の河川や内水を適切に管理し、必要な整備を図ります。

5. 東部地域

(1) まちづくりのテーマ

『緑豊かで若さと活気あふれる大学の門前町』

卯辰山丘陵並びに東部丘陵の前面に広がる大学の門前町として、賑わいのあるショッピングゾーンを核に、生活の利便性と快適性を備えた新しい市街地形成を図ります。

また、金沢外環状道路山側幹線沿道において、適正な土地利用を図るとともに、快適な交通環境の確立や丘陵地の緑、浅野川の流れ等を生活空間に取り込み、うるおい豊かで質の高い都市型居住環境の形成を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

丘陵の斜面緑地の保全と緑道や街路樹等による緑のネットワーク形成を図ります。

秩序ある土地利用の誘導と、里山や浅野川の自然空間を活用したうるおいと緑豊かな住環境の形成を図ります。

広域的な交通機能の強化と、その機能を活かした公共交通による快適に移動できる交通ネットワークの形成を図ります。

1) 土地利用の方針

- ・金沢外環状道路山側幹線沿いにおいて、日常的な生活サービスを享受できる土地利用を展開し、その他背後地は、緑豊かなゆとりある文教地区としての秩序ある住宅地の形成を図ります。
- ・高度経済成長期に開発された住宅地の居住者の高齢化や集落地の人口減少等に対して、活力を維持する観点から新たな住宅施策を検討します。
- ・市街地の背景となる卯辰山丘陵や東部丘陵の自然環境の保全を推進します。



【緑豊かな住宅地（太陽ヶ丘住宅地）】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・金沢外環状道路山側幹線沿道において、用途地域や地区計画等の活用により、日常的な生活サービス施設を誘導し、若者や地域住民が集う賑わいのある市街地の形成を図ります。

- ・地域住民との協働による地区計画やまちづくり協定等の導入により、大学門前町として質の高い秩序ある居住空間の形成を図ります。
- ・高度経済成長期に開発された住宅地においては、円滑な世代交代等の施策を検討し、集落地においては、**地区計画制度を活用するなど、適正なまちづくりの誘導を図ります。**
- ・卯辰山丘陵及び東部丘陵は、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。

交通施設等整備の方針

- ・金沢外環状道路山側幹線の鈴見交差点立体化や金沢福光連絡道路の整備を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。
- ・まちなかと大学を結ぶ「金沢バストリガーモード」の活用範囲の拡大やパーク＆ライドシステムの導入を検討するなど、公共交通の利用促進を図ります。
- ・集落内の狭隘道路の整備充実を図ります。



【金沢外環状道路】

公園緑地整備の方針

- ・市街地の借景となる奥卯辰山の斜面緑地、東部丘陵の緑の保全に取り組み、浅野川沿いの緑の遊歩道、幹線道路の街路樹等をつなぐ水と緑のネットワークの形成を図ります。

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・金沢外環状道路山側幹線沿いにおける秩序ある沿道景観の形成を推進します。
- ・太陽ヶ丘住宅地のメタセコイアの並木など地域のシンボル的な景観の保全、育成を図ります。
- ・浅野川の河川景観のほか、ホタルや水生生物が生息する金浦用水、旭町用水、角間川の良好な水辺環境の保全、創出を図ります。



【シンボル的な景観の保全】

- ・東部地域の土砂災害危険箇所において、土砂災害防止対策を推進します。



【水辺環境の保全】

6. 南部地域

(1) まちづくりのテーマ

『緑が映える丘陵地を背景とした成熟した住宅地』

南部丘陵のふもとに広がるゆとりあるおいのある居住環境を保全し、緑に包まれた安心、安全で住みよい住宅地としての質的向上を図ります。

また、北陸鉄道額住宅駅のバスの接続性の向上やパーク＆ライドシステムの導入、バス運行の適切な水準の確保等により、便利で快適な移動環境を創出し、市街地郊外の良好な居住環境を有する成熟した住宅地の形成を目指します。

また、地域の財産として、野田山の歴史的資源の保全、活用を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

地域商業地の活性化を推進し、快適な買い物環境の創出と利便性の良い住宅地の形成を図ります。

都心部方面へのアクセスにおいて、公共交通への利用転換を図ります。

伏見川、高橋川のうるおいのある水辺環境の保全、活用を図ります。

市街地の後背地となる南部丘陵地を保全します。

1) 土地利用の方針

- ・南部丘陵の緑を背景に、快適でゆとりある暮らしを享受できる住宅地の形成を図ります。
- ・既存商店街の活性化や生活利便施設の充実により、利便性に富むまちづくりを目指します。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・良好な居住環境の保全、創出を図るため、地域住民との協働による地区計画やまちづくり協定の活用により、きめ細かなまちづくりの推進を図ります。
- ・額、円光寺等の地域商業地において、地域住民の日常的な買い物をまかなく商業機能の強化を図り、利便性に富み親しみのある地域商業地の形成を目指します。
- ・南部丘陵は、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。



【良好な居住環境の推進】

交通施設等整備の方針

- ・北陸鉄道額住宅駅前において、バスとの乗り継ぎ連携を円滑にし、**公共交通の利便性向上**を検討します。
- ・都心部へのアクセスにあたっては、公共交通**利用**が基本となることを目指し、パーク & ライド駐車場の**設置拡大及び利用促進**を検討するとともに、**公共交通重要路線**を中心にバスレーン、公共交通優先システム（P T P S）の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、**利用活性化**を推進します。

公園緑地整備の方針

- ・大乗寺丘陵総合公園において、ツツジ園内等の植栽や園路舗装など、公園施設の整備充実を図ります。
- ・本市の競技スポーツの拠点として、金沢南総合運動公園の施設や設備の整備充実を図るとともに、周辺においてフラワーロードの拡充を図ります。
- ・卯辰山丘陵から大乗寺丘陵にかけて、歴史的資源を活用した遊歩道の整備に**努めます**。



【大乗寺 山門】

3) **地域**環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・南部丘陵の緑量感豊かな環境について、引き続き風致地区として保全していきます。
- ・野田山丘陵や四十万、見晴し台からの市街地の眺望景観の保全を図るとともに、良好な視点場として見晴し台の整備を図ります。
- ・野田山墓地の前田家墓所や加賀八家墓所、伏見川の甌穴群、不老坂、長坂用水等の史跡、文化遺産や大乗寺仏殿、高尾城址、藤五郎神社、蓮如堂等の由緒ある神社仏閣の保全、活用を図ります。
- ・ホタルが生息する七瀬川や長坂用水のせせらぎ、伏見川、高橋川の水辺空間など、身近にある良好な水辺環境の保全、活用を図ります。



【見晴らし良好な野田山丘陵】



【野田山墓地の前田家墓所】

安全・安心な地域づくりの方針

- ・南部地域の土砂災害危険箇所において、土砂災害防止対策を推進するとともに、斜面沿いの住宅の重点的な防災対策を推進します。
- ・水害被害を防止するため、高橋川等の河川改修整備を図ります。

7. 東部丘陵地域

(1) まちづくりのテーマ

『里山の自然と共生し、湯涌温泉を核とした癒しの空間』

浅野川上流の山間地の豊かな自然環境を保全するとともに、湯涌温泉や医王山並びに戸室山周辺の自然レクリエーション施設について、自然とふれあいながらレクリエーションが楽しめるゾーンとしての機能強化を図り、地域の活性化と交流を図ります。

また、中山間集落において、定住人口やコミュニティの維持を図る土地利用制度の適切な運用や山間地ネットワーク道路の整備等を推進し、安全、快適な定住基盤の確保を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

山間地の樹林帯や溪流等の豊かで美しい自然環境を保全します。
湯涌温泉や既存レクリエーション施設の機能強化を図り、交流活動の推進による地域の活性化を図ります。
中山間集落の定住基盤の整備充実を図り、人口の流出を抑制し、活力ある集落の創出を目指します。

1) 土地利用の方針

- ・緑豊かな森林や浅野川の清流など、優れた自然環境を保全するとともに、これらとふれあうことのできる空間の創出を図ります。
- ・市街化調整区域内の集落等においては、**自然環境と調和した土地利用を図ります。**
- ・湯涌温泉街のさらなる活性化を図ります。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・湯涌温泉街の活性化を目指し、そぞろ歩きしたくなるまちなみ整備や景観形成、温泉ゲートゾーンの整備充実を図り、金沢の奥座敷として情緒ある温泉街の創出を目指します。
- ・**中山間地域の日常生活を支える地域づくりを検討します。**
- ・市街化調整区域内の集落においては、定住人口やコミュニティ維持を図るため、地区計画制度を**活用するなど**、適正な**まちづくりの誘導**を図ります。



【湯涌温泉街】

- ・東部丘陵は、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。

交通施設等整備の方針

- ・金沢福光連絡道路の整備を促進し、富山方面とのアクセス強化を図ります。
- ・市街地と本地域を結ぶ幹線道路や山間地ネットワーク道路の整備、集落間を結ぶ連絡道路の整備充実を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。
- ・スクールバスやジャンボタクシーなどの活用等も検討しながら、中山間地域におけるモビリティ確保に努めます。

公園緑地整備の方針

- ・戸室ビオトープやキゴ山ふれあいの里等の自然レクリエーション環境の充実と活用を図り、自然とふれあう機会の拡充を推進していきます。
- ・旧江戸村跡地、白雲楼ホテル跡地、玉泉湖周辺を活用した（仮称）湯涌散策園の整備を推進し、湯涌温泉との回遊性を図り、魅力ある施設とします。



【金沢湯涌創作の森】



【旧江戸村跡地】

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・市街地背後から連なる緑豊かな丘陵地景観の保全と、浅野川のうるおいある河川景観の保全を図ります。
- ・戸室石切丁場等の歴史的資産の保全や、二俣地区に伝わる紙すきの伝統文化や落ち着いた佇まいの集落景観の保全、形成を図ります。
- ・地域内を流れる浅野川や田島川等の水辺の生態系の回復を図り、良好な水辺環境の形成を図ります。
- ・医王のササユリ群生等の希少植物の生育地やミズナラ、ブナ等の天然林の保全をはじめ、豊かな自然環境が残る里山の環境保全を図ります。



【里山の環境保全】

安全・安心な**地域づくり**の方針

- ・災害発生時における山間集落の孤立化を防止するため、道路基盤の整備並びに山間地ネットワーク道路の形成を図ります。
- ・中山間集落の防災性の向上を図るため、安全な避難場所の確保を図るとともに、情報手段の整備充実を推進します。
- ・浅野川上流地域において、砂防施設工事等による土砂災害防止対策を図ります。
- ・水害に強いまちづくりのため、浅野川等の河川や内水を適切に管理し、必要な整備を図ります。

8. 南部丘陵地域

(1) まちづくりのテーマ

『人と自然が融合した緑豊かな里山』

犀川上流の山間地の豊かな自然環境を保全するとともに、自然学習や交流の場としての活用並びに受け入れ態勢の整備を図ります。

また、中山間集落において、定住人口やコミュニティの維持を図る土地利用制度の適切な運用や山間地ネットワーク道路の整備等を推進し、安全、快適な定住基盤の確保を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

山間地の樹林帯や渓流等の豊かで美しい自然環境を保全します。
自然学習の場としての活用やまちとの交流のしきけづくりを検討します。
定住基盤の整備充実による中山間集落の活性化を図ります。

1) 土地利用の方針

- ・深い緑に囲まれ、清らかな犀川の流れや四季折々の田園風景が美しい里山の自然環境を保全します。
- ・市街化調整区域内の集落等においては、**自然環境と調和した土地利用**を図ります。



【美しい里山の保全】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・中山間地域の日常生活を支える地域づくりを検討します。
- ・市街化調整区域内の集落においては、定住人口やコミュニティ維持を図るため、地区計画制度を活用するなど、適正なまちづくりの誘導を図ります。
- ・南部丘陵は、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。

交通施設等整備の方針

- ・市街地と本地域を結ぶ幹線道路や集落間を結ぶ連絡道路の整備を推進し、山間地道路ネットワークの形成を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。

- ・スクールバスやジャンボタクシーなどの活用等も検討しながら、中山間地域におけるモビリティ確保に努めます。

公園緑地整備の方針

- ・坪野キャンプ場や内川スポーツ広場、平栗いこいの森等のレクリエーション施設について、市民ニーズに対応した施設の充実に努めるとともに、利用促進を図り、自然とふれあう機会の拡充を推進していきます。



【内川スポーツ広場】

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・市街地の背景を形成する緑地景観としての野田山、南部丘陵地の保全や、犀川上流域や長坂用水の水辺景観の保全を図ります。
- ・坪野地区の棚田風景の保全や、周囲の自然環境と一体となった魅力ある集落景観の形成を図ります。
- ・平栗地区のカタクリ群生の保全や平栗自然環境保全区域、内川地区自然環境保全協定地区の適切な管理を図り、優れた自然の保全を図ります。



【平栗いこいの森】



【水辺環境の保全】

安全・安心な地域づくりの方針

- ・災害発生時における山間集落の孤立化を防止するため、道路基盤の整備並びに山間地ネットワーク道路の形成を図ります。
- ・中山間集落の防災性の向上を図るため、安全な避難場所の確保を図るとともに、情報手段の整備充実を推進します。
- ・南部丘陵地の土砂災害危険箇所において、土砂災害防止対策を推進します。

9. 湖南地域

(1) まちづくりのテーマ

『豊かな田園風景に育まれたゆとりある 住宅・レクリエーション地域』

食糧生産の場や自然環境保全、良好な田園景観形成等の多面的な機能を有している農地の保全を図るとともに、郊外の伸びやかな自然環境と調和し、利便性が高く、安心、安全な暮らしを享受できる住宅地環境の形成を図ります。

また、**金沢外環状道路海側幹線**の未整備区間の整備促進と沿道周辺での無秩序な市街化を抑制するほか、河北潟の水辺環境を保全しながら、水郷レクリエーションゾーンとしての既存施設の整備充実や機能強化を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

金沢外環状道路海側幹線の整備促進を図るとともに、沿道周辺での無秩序な市街化の抑制を図ります。

優良農地の保全や良好な田園環境の保全に取り組みます。

地域の連帯感の中で、安全、安心して快適に暮らせる居住基盤整備を図ります。

河北潟の水辺環境の保全と、周辺のレクリエーション施設の充実や機能強化を図ります。

1) 土地利用の方針

- ・**金沢外環状道路海側幹線**沿道での無秩序な宅地化を抑制し、秩序ある土地利用を図ります。
- ・市街化調整区域内の集落等においては、**自然環境と調和した土地利用**を図ります。
- ・河北潟周辺に広がる優良農地の保全を図ります。



【優良農地の保全】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・市街化調整区域内の集落においては、定住人口やコミュニティ維持を図るために、地区計画制度を**活用するなど**、適正な**まちづくりの誘導**を図ります。



【居住基盤の整備】

- ・**金沢外環状道路海側幹線**沿道については、営農環境に配慮し、地区計画の指定を検討します。

交通施設等整備の方針

- ・**金沢外環状道路海側幹線**の未整備区間の整備を推進し、早期開通を目指します。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。

公園緑地整備の方針

- ・本市の競技スポーツの拠点として、**金沢城北市民運動公園**の管理運営の充実を図るとともに、拡張整備を推進します。
- ・北部公園については、市民の休息や散策、運動等の場として親しまれており、**管理運営**の充実を図ります。
- ・こなん水辺公園の水生動植物の生息環境を保全し、環境教育を充実させ、自然と親しむ交流拠点としての機能充実を図ります。
- ・浅野川河川敷において、遊歩道を活用した水と緑と花に親しむことができる空間の整備を検討します。
- ・文化的な資産でもある地域の神社、仏閣の境内林、社叢林の保全を図ります。



【こなん水辺公園】



【水辺環境の保全】

3) **地域**環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・河北潟の野鳥や魚類、水生植物の生息環境を保全するため、ヨシ原の保全、再生や水質浄化を図ります。
- ・東インター大通りにおいて、屋外広告物の適切な規制誘導等により、周辺の田園景観と調和した良好な沿道景観の形成を図ります。
- ・広がりのある田園風景の保全を図るとともに、田園と調和した住宅地や集落地の良好な景観形成を目指します。

安全・安心な**地域**づくりの方針

- ・浅野川の氾濫防止対策や河北潟周辺の浸水対策として、大宮川等の河川改修整備を推進し、水害防止を図ります。

10. 北部地域

(1) まちづくりのテーマ

『駅やインターを核とした 緑あふれる魅力的な北の拠点』

交通結節点であるJR森本駅周辺の基盤整備を推進し、金沢北部の玄関口にふさわしい機能集積や強化を図るほか、北陸自動車道森本IC周辺についても、広域交通結節点として道路機能の強化を図ります。

また、歴史的なまちなみの保全に配慮しつつ、住宅密集地の居住環境の向上を図るほか、市街地背後の丘陵や周辺に広がる農地、里山環境の保全に努め、緑豊かな自然環境と調和した良好な居住地としてのまちづくりを目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

JR森本駅周辺の再整備を推進し、魅力と人が集まる賑わいのある玄関口の創出を図ります。

丘陵の緑地帯をはじめ、農地や河川の自然環境、里山の保全を図ります。

既存住宅地の居住環境並びに防災性の向上を図ります。

1) 土地利用の方針

- JR森本駅周辺の商業、業務機能の強化など、交通拠点性を活かした土地利用を図ります。
- 北陸自動車道金沢森本ICの広域交通拠点を活用し、金沢テクノパークにおいては先端産業を配し、河原市工業団地においては流通業務地としての土地利用を図ります。
- 市街化調整区域内の集落等においては、自然環境と調和した土地利用を図ります。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- JR森本駅周辺において、多くの人々が集散する拠点にふさわしい基盤整備を図り、機能的で賑わいのある市街地形成を推進します。
- 中山間地域の日常生活を支える地域づくりを検討します。



【南森本町住宅団地】

- ・金沢テクノパークにおいて、さらなる企業誘致を図るとともに、河原市工業団地において面的基盤整備を推進します。
- ・市街化調整区域内の集落においては、定住人口やコミュニティ維持を図るため、地区計画制度を活用するなど、適正なまちづくりの誘導を図ります。
- ・東部丘陵は、引き続き風致地区として、その自然環境の保全に取り組みます。



【金沢テクノパーク】

交通施設等整備の方針

- ・金沢北部の玄関口であるJR森本駅東広場の再整備を推進し、交通結節点としての機能強化を図ります。
- ・JR森本駅周辺において、パーク＆ライド駐車場の確保並びに利用促進を図るとともに、路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。
- ・金沢外環状道路山側幹線の4車線化を推進します。
- ・国道304号、359号等の幹線道路の整備充実を図ります。
- ・スクールバスやジャンボタクシーなどの活用等も検討しながら、中山間地域におけるモビリティ確保に努めます。



【現在のJR森本駅東広場】

公園緑地整備の方針

- ・河原市用水沿いに周辺の豊かな緑と美しい水辺を活かした散策路を整備し、快適な水と緑の空間の創出を検討します。

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・卯辰山丘陵や東部丘陵に広がる斜面緑地の保全や、東原町の水芭蕉群等の貴重な植生の積極的な保全を図ります。
- ・JR森本駅周辺や金沢森本IC周辺において、市の北の玄関口としてふさわしい魅力ある景観形成を図ります。
- ・旧北国街道の歴史的なまちなみ景観、波自加弥神社等の由緒ある神社仏閣等の景観の保全を図ります。
- ・森下川や河原市用水等の維持、管理等により、良好な水辺環境の創出を図ります。



【旧北国街道の面影を残す県道】

安全・安心な地域づくりの方針

- ・広域防災拠点として高速道路インターチェンジの活用を検討します。
- ・老朽化が進んでいる住宅団地の防災性の向上を図ります。
- ・水害被害を防止するため、森下川の河川改修整備を図ります。
- ・北部地域の土砂災害危険箇所において、土砂災害防止対策を図ります。

11. 駅西地域

(1) まちづくりのテーマ

『広域都市機能が集積する活気あふれる金沢駅西新都心』

新都心の玄関口としてふさわしい金沢駅西広場の再整備や、交通結節機能の強化を図るとともに、都心軸周辺において、バスの利便性向上や広域業務機能の集積、近代的な都市景観の形成を図り、活力と賑わいのある新都心の創出を図ります。

また、新都心居住機能の充実強化により、職住のバランスのとれた快適な新都心生活が享受できる環境づくりや、安全、安心基盤の強化により、すべての人が生活しやすいまちづくりを目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

新都心の玄関口として、金沢駅西広場の再整備を推進します。

賑わいや活力の軸として、都心軸の機能強化を図ります。

身近な緑や河川空間を活用し、緑とゆとりある住宅地など、魅力ある都心居住の環境づくりを図ります。

1) 土地利用の方針

- ・都心軸周辺では、中心商業地として北陸地域の広域業務機能の集積を図るとともに、金沢駅西口周辺においては、交通結節拠点としての機能強化やそれに伴う有効な土地利用を図ります。
- ・都心軸背後の住宅地においては、居住環境の向上を基本とした土地利用を図り、職住が近接した快適で魅力ある都市環境の形成を目指します。
- ・マンションと戸建住宅が混在立地する住宅地において、良好な居住環境や秩序あるまちなみ景観の維持を図ります。
- ・住工混在地区において、秩序ある土地利用の誘導を図ります。

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・金沢駅西口において、駅西地域の玄関口としてふさわしい広場の整備を推進し、機能的で賑わいにあふれた空間づくりを図ります。



【現在のJR金沢駅西口広場】

- ・都心軸周辺において、都心への近接性と各種都市機能の集積という優れた環境を活かし、地区計画やまちづくり協定の活用により、職住近接型で質の高い居住環境の整備を図ります。
- ・高度地区の指定を推進するとともに、地区計画やまちづくり協定の活用により、建物の高さが揃ったまちなみ形成を図ります。
- ・住工商の建物が混在する住宅地については、用途地域の見直しや特別用途地区の設定等を検討し、良好な市街地形成を図ります。



【居住環境の整備】

交通施設等整備の方針

- ・北陸新幹線開業を踏まえ、金沢駅西広場において、交通結節機能の向上及び賑わい創出を目指し、広場の拡張や広場機能の充実、歩道付き道路の整備等の再整備を推進します。
- ・都心部へのアクセスにあたっては、公共交通利用が基本となることをを目指し、公共交通重要路線を中心にバスレーン、公共交通優先システム(P T P S)の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。
- ・金沢外環状道路海側幹線や中環状道路等の整備により、幹線道路ネットワークの確立を図ります。
- ・金沢外環状道路海側幹線と主要放射幹線道路の交差点周辺において、パーク & ライド駐車場の確保を図り、マイカーから公共交通への利用転換を図ります。

公園緑地整備の方針

- ・住宅や公共施設の緑化、商業、業務施設の屋上緑化等を図り、まちなみの緑の増大を目指します。
- ・地区の様々な施設との連携を支援できる緑の交流軸の形成のため、犀川から浅野川間に西部緑道の整備を推進します。



【緑の増大を目指す住宅地】

3) **地域**環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・都心軸をはじめ金沢駅西口周辺、金沢外環状道路海側幹線、諸江通りにおいて、沿道建築物や屋外広告物の適正な規制誘導、街路樹の維持管理等により、洗練された近代的なまちなみ景観の形成を図ります。
- ・地域内を流れる犀川、浅野川の河川緑地の保全や親水空間の創出を図ります。



【近代的なまちなみ景観を
誘導する都心軸】

安全・安心な**地域**づくりの方針

- ・水害被害を防止するため、犀川、浅野川、弓取川、木曳川等の河川改修整備を図ります。

12. 臨海地域

(1) まちづくりのテーマ

『金沢港を核とした活力と賑わいのある海の玄関口』

金沢港の物流機能の強化に向けた整備や周辺の工業立地基盤の整備を推進し、新都心と連携し、海の玄関口としてふさわしい機能的で活力ある臨海部の創出を図ります。

また、金石、大野地区における港町の歴史性を活かした環境整備や、市内有数の園芸産地である五郎島地区の優良農地の保全を図るとともに、道路交通基盤や防災基盤の整備充実に努め、安全、安心して暮らせる居住環境の創出を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

金沢港の港湾機能の強化と周辺の工業立地基盤の整備を推進します。
新都心と連携した金沢港の魅力や賑わい創出を目指します。
金石、大野地区において、歴史的まちなみの保全を前提とした**安全、安心**して暮らせる居住基盤の整備充実を図ります。
五郎島地区の優良農地や自然緑地の保全を図り、**緑豊かな地域づくり**を推進します。

1) 土地利用の方針

- ・金沢港周辺において、新たなものづくり産業の拠点形成を促す土地利用を図ります。
- ・金石港沖合の埋立地の有効利用を検討します。
- ・住工の用途混在地区において、秩序ある土地利用の誘導を図ります。
- ・金石、大野地区の歴史的まちなみの保全を前提とした災害に強い居住基盤の整備を図ります。
- ・五郎島地区において無秩序な宅地化を防止し、優良農地の保全を図ります。
- ・**市街化調整区域内の集落等においては、自然環境と調和した土地利用を図ります。**



【金沢港周辺】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・金沢港周辺において、新たなものづくり産業の拠点の創出を目指し、工業立地基盤の整備充実や企業の集積を推進します。

- ・住工商の建物が混在する地区については、用途地域の見直しや特別用途地区の設定等を検討し、良好な市街地形成を図ります。
- ・金石、大野地区の昔ながらの歴史的まちなみの維持、保全に配慮しつつ、住民と行政の協働のもと、居住環境並びに防災基盤の整備充実を図ります。
- ・市街化調整区域内の集落においては、定住人口やコミュニティ維持を図るため、地区計画制度を活用するなど、適正なまちづくりの誘導を図ります。

交通施設等整備の方針

- ・金沢港において、国際物流拠点としての機能充実に向け、大水深岸壁や外周護岸等の整備を推進します。
- ・金沢外環状道路海側幹線の未整備区間の整備を推進し、早期開通を目指します。
- ・能登地域と金沢中心部への連絡強化を図るため、主要地方道金沢田鶴浜線（金沢能登連絡道路の直線化）や諸江向粟崎線の整備を推進します。
- ・都心部方面へのアクセスにおいて、マイカー中心からマイカーと公共交通による移動への転換を目指し、パーク＆ライド駐車場の確保を図るほか、公共交通重要路線を中心に公共交通優先システム（P T P S）の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。



【現在の金沢港】

公園緑地整備の方針

- ・金石、大野やすらぎの林や大野お台場公園等において、海を身近に感じ、海とふれあえる憩い空間の創出を図ります。
- ・犀川河川敷を有効活用し、市民が身近に憩える親水性の高いレクリエーション空間の創出を図ります。

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・都心軸沿線において、連続した近代的なまちなみ形成を図ります。
- ・金石、大野地区の歴史的なまちなみをはじめ、醤油工場やもろみ蔵等の由緒ある建造物や大野日吉神社、大野湊神社等の由緒ある神社仏閣の保全を図ります。



【歴史的なまちなみ】

- ・海岸沿いの樹林帯は防風、防砂機能のみならず風致保全上においても重要であり、今後とも保全を図ります。
- ・犀川、浅野川、大野川や鞍月用水等の環境美化に努め、良好な水辺空間の形成を図ります。



【海岸沿いの景観】

安全・安心な地域づくりの方針

- ・木造住宅密集地において、安全な避難路、避難場所の確保、建築物の不燃化、耐震化等の防災基盤の整備や地域住民の協定に基づく防災まちづくりを推進します。
- ・風害、塩害防止帯として、海岸部の樹林地帯や海岸保安林等の保全、育成を図ります。
- ・水害被害を防止するため、犀川、弓取川、木曳川等の河川改修整備を図ります。

13. 西南部地域

(1) まちづくりのテーマ

『 住宅と都市型産業が調和する金沢の西の玄関口 』

JR西金沢駅や北陸自動車道、国道8号等の広域交通の結節性を活かした生活利便性の高い住宅地の形成を図るため、JR西金沢駅西側一帯の基盤整備や公共交通への利用転換と利便性向上に向けた取り組みを推進します。

また、住商工の用途の混在を整序しつつ、居住環境の保護や都市緑化の推進、防災基盤の整備充実等を推進し、子どもから高齢者まで誰もが住みよいまちづくりを目指します。

(2) 主なまちづくりの方針

JR西金沢駅西側の基盤整備を推進します。

公共交通への利用転換を**促進**するとともに、パーク＆ライドシステムを**推進**します。

住商工の用途の混在を整序しつつ、住環境の向上や防災に配慮したまちづくりを図ります。

(都) 専光寺野田線において、良好な沿道景観の形成を図ります。

1) 土地利用の方針

- 幹線道路沿道における秩序ある土地利用を図ります。
- 古府松島地区等の都市型産業地区において、現土地利用を維持しつつ、操業環境の向上を支援する土地利用を図ります。
- 住工混在地区における用途の混在を整序しつつ、良好な市街地の形成と都市環境の創出を図ります。
- JR西金沢駅周辺の工場跡地の有効利用を促進し、秩序あり魅力的で活力のあるまちづくりを推進します。



【都市型産業を形成する
古府松島地区】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- 幹線道路沿道において、地区計画やまちづくり協定の活用により、背後の居住環境と調和した良好な**市街地の形成**を図ります。
- 都市型産業地区において、ふさわしい企業の集積等による機能強化を図るとともに、緩衝緑地の設置等により、周辺の住環境と調和した**市街地形成**を図ります。

- ・大規模な工場跡地においては、将来の土地利用を十分に検討し、都市基盤整備を推進します。
- ・住工商の建物が混在する住宅地については、用途地域の見直しや特別用途地区の設定等を検討し、良好な市街地形成を図ります。

交通施設等整備の方針

- ・北陸自動車道金沢西IC周辺及びJR西金沢駅周辺において、パーク＆ライド駐車場の確保並びに利用促進を図り、都心部へのアクセスについて、マイカーから公共交通への乗り継ぎを検討します。
- ・JR西金沢駅周辺において、バス停をはじめ、タクシー乗降場、送迎用駐車場、駐輪場からなる駅西広場の整備を推進します。
- ・都心部方面へ向かうバス交通の利便性向上を目指し、公共交通重要路線を中心に公共交通優先システム（PTPS）の導入を検討するなど、バス交通の定時性、速達性の確保を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。
- ・犀川以南区間における鉄道の連続立体交差については、事業化の可能性について検討します。



【北陸自動車道西IC周辺地区】

公園緑地整備の方針

- ・犀川や伏見川沿いの河川緑地を保全するとともに、住宅や民有施設の緑化を図り、緑の増大と連続性を図ります。
- ・JR西金沢駅の西口に地域住民が憩える公園の整備を図ります。

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・西インター大通りにおいて、本市の玄関口にふさわしい質の高い沿道景観の形成を図ります。
- ・犀川や伏見川、中村高畠用水等の良好な水辺空間の保全と、良好な景観の創出を図ります。



【西インター大通り】

- 安全・安心な地域づくりの方針
- ・災害時の避難地や延焼遮断帯として機能するオープンスペースを確保するとともに、安全な避難路の確保を図ります。



【水辺環境の保全】

14. 西部地域

(1) まちづくりのテーマ

『外環状道路を基軸に、都市近郊農業と調和した 住宅・工業・レクリエーション地域』

金沢外環状道路海側幹線の開通に伴う工業並びに流通業務機能の強化を図るとともに、無秩序な市街化の抑制や住環境の保全を図り、住宅、工業、流通業務、農地など調和のとれた秩序ある地域環境の形成を図ります。

また、安原地区の優良な砂丘地園芸地を保全するとともに、海浜部の自然環境の保全や海浜レクリエーション拠点の整備充実など、良好な海浜環境の保全と活用を図ります。

(2) 主なまちづくりの方針

金沢外環状道路海側幹線沿いの工業並びに流通業務拠点の形成と機能充実を図ります。
砂丘地農業が展開されている優良農地の保全を図ります。
海浜部の自然環境の保全と、海浜レクリエーション施設の整備充実を図ります。
既存住宅団地の活性化や新興住宅地の良好な住環境の保全を図ります。

1) 土地利用の方針

- ・新興住宅地や農村集落地のゆとりある居住環境の保全を図ります。
- ・老朽化が進展しつつあるみどり団地の今後のあり方を検討します。
- ・金沢外環状道路海側幹線周辺において、工業地や流通業務地としての土地利用の誘導を図ります。
- ・市街化調整区域内の集落等においては、**自然環境と調和した土地利用を図ります。**
- ・安原地区の優良農地の保全を図ります。
- ・**西部緑地公園を活かしたまちづくりを展開します。**



【現在のみどり団地】



【優良農地】

2) 地域基盤整備の方針

地域整備の方針

- ・良好な居住環境の保全、創出を図るため、地域住民との協働による地区計画やまちづくり協定の活用により、きめ細かなまちづくりの推進を図ります。
- ・特別用途地区の設定や地区計画の活用により、工業や流通業務機能の確保を図ります。
- ・市街化調整区域内の集落においては、定住人口やコミュニティ維持を図るため、地区計画制度を活用するなど、適正なまちづくりの誘導を図ります。



【工業や流通業務機能の確保】

交通施設等整備の方針

- ・金沢外環状道路海側幹線の未整備区間の整備を促進し、早期完成を図ります。
- ・路線バスの利便性向上について交通事業者と連携を図りながら検討し、利用活性化を推進します。
- ・海岸沿いを走るしおさいロードの有効活用を検討します。

公園緑地整備の方針

- ・本市の競技スポーツの拠点として西部緑地公園の管理運営の充実を図るとともに、自然と調和したレクリエーション空間として健民海浜公園の管理運営の充実、専光寺ふれあいの森等の整備充実を図ります。
- ・健民海浜公園や専光寺ふれあいの森、普正寺の森、西部緑地公園、河川緑地等を結ぶ緑のネットワークの形成を検討します。



【海浜部の貴重な緑である専光寺ふれあいの森】

3) 地域環境整備の方針

地域環境形成の方針

- ・計画的に整備された住宅地においては、地区計画の活用により、個性豊かで質の高い景観形成を図ります。
- ・金沢外環状道路海側幹線沿いにおける秩序ある沿道景観の形成を図ります。
- ・上荒屋遺跡等の地域の貴重な文化財の保護を図ります。
- ・防風、防砂機能のみならず風致保全上も重要な要素である海岸沿いの樹林帯の保全や、多様な動植物が生息している普正寺の森の保全と施設の充実を図ります。

- ・魚が棲息し、良好な水質や豊かな自然が維持されている犀川、安原川等のうるおい豊かな河川環境の保全を図ります。

安全・安心な地域づくりの方針

- ・水害被害の防止のため、犀川、安原川等の河川改修を推進します。
- ・風害、塩害防止帯として、海岸部の樹林地帯や海岸保安林等の保全、育成を図ります。